

県立高等学校再編将来構想（案）における意見募集の結果について

今回、「県立高等学校再編将来構想（案）」における意見募集を行いました。

集計は、下記のとおりとなります。

県の考え方ですが、今回いただいた御意見は、いくつかの分野にまとまっており、一つ一つ対照表的に回答すると、県の考え方の全体が分かりにくくなることから、分野ごとにまとめて、県の考え方を回答する形としました。

ただ、御意見は、それぞれ具体的な内容が異なりますので、全ての御意見は、掲載する形としております。※分野が複合的になっている御意見もありますが、主な分野で整理しましたので御了承ください。

「県立高等学校再編将来構想」は、2030年代半ばを見据えた構想であることから、取組の方向は、状況の変化に応じて見直しをしていくとともに、具体化についても、継続的に検討し、適宜発表していくものとなっております。また、第3章でお示した「2023年度に実施する県立高等学校の一層の魅力化・特色化、再編の内容」におきましても、これから検討すべき具体的な内容もありますので、今回いただいた御意見を参考に、今後も引き続き、検討・具体化を進めていきます。

2021年12月22日

<集計結果>

・提出人数： 134人 ・提出件数： 227件

■提出方法

| 区分 | メール | 郵便 | FAX | 合計 |
|----|------|------|------|-----|
| 人数 | 84 | 16 | 34 | 134 |
| % | 62.7 | 11.9 | 25.4 | |

■市町村別

| 区分 | 名古屋 | 尾東 | 尾北 | 尾中 | 尾西 | 知多 | 西三河 | 東三河 | 県外・不明 | 合計 |
|----|------|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-------|-----|
| 人数 | 59 | 9 | 8 | 6 | 22 | 4 | 15 | 7 | 4 | 134 |
| % | 44.0 | 6.7 | 6.0 | 4.5 | 16.4 | 3.0 | 11.2 | 5.2 | 3.0 | |

■年齢別

| 区分 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 不明 | 合計 |
|----|-----|-----|------|------|------|-----|------|-----|-----|
| 人数 | 5 | 4 | 17 | 28 | 44 | 13 | 19 | 4 | 134 |
| % | 3.7 | 3.0 | 12.7 | 20.9 | 32.8 | 9.7 | 14.2 | 3.0 | |

■職業別

| 区分 | 教職員 | 会社員 | 学生 | 公務員 | 団体 | その他 | 不明 | 合計 |
|----|------|------|-----|-----|------|------|-----|-----|
| 人数 | 49 | 17 | 6 | 10 | 14 | 35 | 3 | 134 |
| % | 36.6 | 12.7 | 4.5 | 7.5 | 10.4 | 26.1 | 2.2 | |

※職業別（補足）

- ・教職員： 教員、学校職員
- ・会社員： 会社員、会社役員、自営業
- ・学生： 中学生、高校生、大学生
- ・公務員： 公務員、愛知県職員
- ・団体： 私塾協同組合、NPO、労働組合専従者、障害者当事者団体、父母連絡会、学習塾主宰 等
- ・その他： 社会福祉施設、デイサービス、介護職員、教育・文化関係、市議、パート、主婦、無職 等

1 再編・統合について

<県の考え方>

稲沢・一宮地区、及び津島・弥富地区における統合に関する御意見、統合全般に関する御意見、山間部・中山間部・半島部に関する御意見などがありました。

統合についてですが、今後の中学校卒業生数の減少を踏まえると、学校規模が小規模化して、教育活動に支障をきたす恐れがありますので、地域ごとの中学校卒業生数の推移や中学生の進路動向等を総合的に勘案し、統合等による再編を進めていく必要があると考えております。今後、統合等による再編を進めるにあたっては、各校各学科には、地元の生徒の進学ニーズへの対応や、地元企業への就職、様々な事情を抱える生徒へのきめ細かな指導など、その地域における役割がありますので、今後、地域における役割を踏まえつつ、前回の再編における適正規模（1学年当たり6～8学級程度）に縛られない形で、検討を進めていきます。

また、山間部・中山間部・半島部につきましては、通学可能な高校が限られていることや、高校が持続可能な地域づくりの重要な要となっていることから、地元自治体などの関係者と継続的に協議し、魅力ある学校づくりを進めていきます。さらに、地域における高校の在り方についても、地域の市町村等関係者と協議を進めていきます。

なお、今回、お示しした統合（案）のうち、稲沢・一宮地区ですが、稲沢東高校と尾西高校が3学級となるとともに、欠員の増加により、2021年度の入学者数が、稲沢高校農業科で117人、稲沢東高校普通科で90人、尾西高校普通科で60人の計267人と、小規模化しております。また、尾張西部地区は、他地区に比べて中学校卒業生数の減少の進行が早い状況にあります。さらに、稲沢東高校は、稲沢高校から分離・独立して創立した学校であることや、尾西高校は普通科であります。卒業生の約半数が就職していることなどから、近接した3校を統合することとしました。

次に、津島・弥富地区ですが、海翔高校が3学級となるとともに、欠員の増加により、2021年度の入学者数が、津島北高校普通科で43人、津島北高校商業科で79人、海翔高校普通科で42人、海翔高校福祉科で32人の計196人と、小規模化しております。また、尾張西部地区は、他地区に比べて中学校卒業生数の減少の進行が早い状況にあります。さらに、海翔高校には、福祉科が設置されていますが、福祉科を設置している県立高校は、県内に4校のみであり、通学範囲が広域になっていますので、福祉科を交通至便地に設置することが望ましいと考えております。こうしたことから、名鉄の駅から徒歩で近い津島北高校に統合することとしました。

また、中川商業高校は、職業学科初の全日制単位制としますが、ここでは、普通教科の基礎・基本の定着といった普通科での学びに加え、仕事に必要なビジネスマナー、簿記、パソコン操作などを、時間をかけて丁寧に学び、卒業後の就職までしっかりと導いていくことを想定しています。海翔高校では、名古屋市南部から通学している生徒が多いことに加え、卒業後に就職する生徒も多いことから、全日制単位制へ改編した後の中川商業高校が、海翔高校普通科へ進学を希望している生徒の魅力ある選択肢となればと考えています。

以上のこうした理由により、2組の統合案を、今回のパブリック・コメントでお示しをしましたが、今後、さらに具体的な内容を決定していく必要がありますので、それぞれの学校の良さを生かしつつ、今回いただいた御意見も参考にしながら検討を進め、具体的な内容が決まりましたら、We b等で適宜、お知らせしていきます。

<御意見の概要>

(稲沢・一宮地区の統合について) 5人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|----|-------|--|
| 1 | 74 | 稲沢東高校が無くなることにショックをうけた。新設校に最初に入学者としてさびしい思いである。今の在校生や同窓生やOB会などに説明したのだろうか。基本的に、今回の構想案の稲沢高校、稲沢東高校、尾西高校の統合には、反対である。生徒数が減少するとしても、少人数学級にしていくとか、各学校の特色をより鮮明にし、魅力ある学校づくりに、まずは努力すべきだと考える。 |
| 2 | 78 | 2023年度に稲沢高等学校校地に新校を開校とは、2023年度から2024年度は4校が存在し、2025年度から1校になることでよいか。そうであれば、稲沢東と尾西については、来年度から2カ年度限りとなるので、在校生や保護者の不安に配慮した対応を盛り込む必要があると思う。文案としては、「現在の学校運営組織が、できる限り今後2カ年度の学校運営に携わるよう努める。」 |
| 3 | 79 | 15年ほど前に平和高校が廃校になった際、平和高校と尾西高校を統廃合する案もあったと思うが、せっかく残った尾西高校が再度統廃合の危機に見舞われるのはあまりにも気の毒。かつて稲沢市には稲沢、稲沢東、平和と3つの高校が存在していたのに、2023年には稲沢高校たった一つになってしまう。地域を活性化するには若い人々の力が必要であり、その若い高校生を稲沢市から引き離してしまうのは、稲沢市の活力を削ぐことになる。ぜひとも稲沢、稲沢東、尾西の統廃合案は撤回してほしい。 |
| 4 | 82 | 稲沢・一宮地区における統合について、統廃合ではなく少人数学級の実現により定員割れや生徒数減少に対応すべき。そのためには教育予算を増やし、教職員定数を改善することが必要。少人数学級は困っている生徒などの早期発見にもつながる。生徒の学習権や、通学の保証としての公立高校の役割を果たしてほしい。 |
| 5 | 111 | 稲沢高校周辺に定員割れの高校が三つあるから一緒にしてしまえ、というのは、あまりに機械的かつ官僚的なやり方ではないか。それぞれ特色もあり伝統もある高校であり、地域的にも個性のある高校であるのに、いきなり、三つ統合すればいい、というのは地元住民や該当の高校関係者の思いをないがしろにするものではないか。少なくとも地元関係者の意見を聞くなど、時間をかけてもっと練り上げていくという姿勢が必要ではないか。これらの高校は、地域的に近いとはいえ、通学距離からいうと相当な遠距離であり、近隣の公共交通機関も貧弱であるため、生徒の負担、親の負担も増大する。同時に、地域にとってみれば、地域の教育力の低下、地域コミュニティの力の低下を引き起こし、地方の時代、地方創生の時代というときに、逆行するのではないか。「定員割れ」という事態は、少人数教育を実現し、一人一人に寄り添い、すべての子どもたちの可能性を花開かせる環境づくりの絶好のチャンスと捉えるべき。教育予算を抜本的に増額し、とりわけ教員を増員し、より良い高校教育実現の契機にすべきである。そうしてこそ、公立学校としての住民に対する責任を果たすことができると考える。 |

(津島・弥富地区の統合について) 14人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|----|-------|---|
| 6 | 2 | 現在、県立高校が、津島市には津島・津島東・津島北で3校あるのに対して、弥富市には海翔の1校のみがあり、津島北と海翔が統合され津島北の校舎を使うこととなれば、津島市には県立高校が3校残るのに対して、弥富市には県立高校が一つもなくなってしまう。津島北と海翔の統合に際し、海翔高校の校舎を利用することを要望する。 |
| 7 | 6 | 津島北高校と海翔高校の統合校は、海翔高校で開校すべきである。津島北に開校すると弥富市に県立高校が無くなることになる。統合については、費用を比較して決定すべきである(海翔高校にはもともと福祉コースがある)。 |
| 8 | 22 | 津島北と海翔が統合された場合、普通科公立高校は弥富・蟹江・飛島に無くなり、尾張西部中心部にしか無くなってしまふ。自転車で通学出来る高校が無くなるのは、交通費を抑えたいと考えている人にとっては、不便である。それぞれ、 |

| | | |
|----|----|---|
| | | 耐震工事等は済んでいるが、海翔はまだ一部補修中で、現状、今も、工事業者が入っているのではないかと。現状作業中の校舎を、再来年以降使わないというのは、税金の無駄だと思う。津島北に新しく福祉科用の施設を新設とあるが、海翔の現状施設もまだ十分に使用できるのではないかと。弥富市は、全地域ほぼ海拔 0m 地帯で背の高い建物が無く、海翔は地域の防災の避難拠点になっている。海翔が統合される前の海南高校当初も、7クラスあったので、教室は足りると思う。もう少し、周辺状況も加味してほしい。 |
| 9 | 47 | 海翔高校は、長寿命化の工事を完了したが、津島北高校と合併するため校舎を使わず、多くの税金が無駄になった。計画的に合併を進め、きれいな校舎を新築し生徒を募集しないと、低迷を続け、結果的にまた税金の無駄遣いになるのではないかと。 |
| 10 | 51 | 2023 年に福祉科に入学する生徒は 2 年生まで海翔、3 年から津島北へ通うことになる。2024 年度生は 1 年生だけ海翔で 2 年から津島北に在籍することになる。これはあまりに不合理で生徒の負担も大きく愛校心も育まれないのではないかと。海翔高校は、普通科も含めて 2026 年 3 月まで存続、2024 年 4 月まで普通科も福祉科も募集するのが良いのではないかと。津島北の福祉科は 2027 年 4 月のスタートで良いのではないかと。 |
| 11 | 62 | 統廃合は、こどもの教育にとって良いかどうかを十分に検討する必要がある。また、地域住民、地域経済にも大きな影響を与える。西尾張地域で、過去に県立津島商工（現・県立津島北高校）と、当時新設の県立佐織工業高校（現・県立愛西工科高校）の統合案が出た際、統廃合反対運動が同窓生、父兄の中など関係者に広がり、中止させた経過もあるが、今回、統廃合の対象となっているいずれの高校についても県教育委員会による生徒、父兄、行政関係者への十分な説明が行われておらず、早急に統廃合を進めることに反対する。どれだけの説明が行われたのかについても説明をお願いしたい。 |
| 12 | 63 | 統廃合は、生徒や教職員、住民の意見をよく聞いて進められたのか。県立津島商工と県立佐織工業高校の統合案が出されたときには、津島商工の同窓生を中心に大きな反対運動が起きた。母校がなくなることに加えて、街の発展に大いに関わったと考える。生徒、住民無視の統廃合に反対し、生徒や教職員、父母や地域の声に根ざした学校づくりを求める。 |
| 13 | 65 | 少子化と私立高校授業料実質無償化の影響で、今後も過疎地域の定員割れ及び統廃合は進行していくことが予測されるが、尾張西部の公立高校存続のためには、地元企業への就職支援の強化、高齢化へのニーズにあった海翔高校の福祉科の強化（少人数学級）など、その地域性を生かした魅力化が求められる。特に、弥富市唯一の公立高校の海翔高校の閉校は悩ましい。特別支援学校の高等部も不足していることから、海翔高校に特別支援学校高等部の併設はできないか。海南病院も近く、生徒に何かあった時にも良いと思う。 |
| 14 | 73 | 定員割れを理由に海翔高校をなくすべきではない。津島市には私学も含めて 4 校も高校があり、近くには美和高校もあるが、尾張南部、弥富の近辺には高校がなくなるため、地域的な観点からも必要である。また、津島北高校も定員割れしており、これが津島地区の普通科のクラス数が多いからだとする、津島北高校を今の普通科・商業科の併置校から商業科の単独校にすることで解決するのではないかと。福祉科に関しては実習施設も整っていることから新たに整備する必要のない海翔高校を使用するほうが、理にかなっていると思う。 |
| 15 | 77 | 津島地区に 4 つの学校を残すのは、地域的視点からみてもバランスに欠ける。生徒の学習権や通学を保障するため、統廃合を進めるべきではない。 |
| 16 | 78 | 案文のとおりだと、2023 年度と 2024 年度に福祉科へ入学した生徒は海翔高等学校へ入学し、2025 年度 4 月に津島北高等学校に転校（転籍）？扱いか。また、2 校を統合し新校を開校するとある。しかし、福祉科の生徒が津島北高等学校へ移るともあるので、2025 年度には新校が開校するのではなく、津島北高等学校がそのまま存続するとも受け取れる。誤解のないような表現でお願いしたい。 |
| 17 | 79 | 海翔高校と津島北高校の統合案について、蟹江高校と海南高校を統廃合して創設した海翔高校を、20 年足らずで廃校にするのは、県教委の将来を展望する目がな |

| | | |
|----|-----|--|
| | | <p>かったということになる。もし、海翔高校を廃校にしたら、尾張の最南部地域には県立学校が一つもないことになる。非常に近い距離で存在している津島高校、津島東高校、美和高校、五条高校に手をつけず、海翔を廃校することに納得がいかない。蟹江、弥富、十四山、飛島地域の中学生は一体どこへ行けばよいか。廃校対象の学校は「困難校」あるいは困難校に準ずるような学校ばかりである。生徒数が激減しどうしても統廃合が必要なら、海翔高校は絶対に残し、津島、津島東、津島北、美和、五条の中から一つ廃校にするという案にしてほしい。</p> |
| 18 | 86 | <p>海翔高校の図書室には、専門書もあるので取り壊すべきではない。統合した際、福祉科生たちが、設備の整っていない海翔高校で過ごさなければならないということや、同学年の他学科の生徒たちとの交流ができなくなることは、高校生たちにとってネットワークやつながりは大切なものであるで大損害である。</p> |
| 19 | 117 | <p>津島北高校と海翔高校が統廃合されるのには、異論はないが、新校舎が津島北高校であることには異議がある。海翔高校で昨年度から行っていた校舎の建て直し工事に費やされた費用はどのように説明するのか。今年度初めて分かったことではないと思うのだが、工事をなぜ進めたのか。建て直し工事を行っているのであれば、新しい校舎にしてしまい使うべきだと思う。それであれば、新しい校舎を、気持ちを切り替えて使うことができ、実習用の設備も整っているので、福祉科の生徒が他学科の同級生から隔離されることもなくなり、平等に学生生活を送ることができると思う。津島市には公立高校が3校もあるので、1校くらいなくなっても問題ないと思う。</p> |

(山間部・中山間・半島部について) 3人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|----|-------|---|
| 20 | 35 | <p>足助高校は、近くに、香嵐溪、国の重要伝統的建造物群保存地区などがあり、観光として魅力のある地域にある。観光ビジネス類型においては、インターンシップや商業科目を通して、おもてなしの精神やビジネスマナーを体験的に学んでいる。また、豊田市観光協協会、豊田市などとも協力して地域に根ざした学校づくりに取り組んでいる。今後も人口が減少していく日本においては、観光業は重要な産業になっていくだろう。足助高校は「観光」をキーワードに地域と密着した特色のある学校で地域の拠点となる足助高校を統廃合しないでほしい。</p> |
| 21 | 68 | <p>山間部、中山間部、半島部の高等学校は全て廃校にすべきである。人口減少地域で持続可能な地域づくりのために継続するとあるが、税の負担、都市計画や住居法令など含めて、その必要はないと思う。</p> |
| 22 | 78 | <p>ここで取り扱う、地域の拠点としての高等学校は人口減少地域の学校とされている。県内の交通不便地に立地する学校についても、通学生徒が地域に限定されることから、地域とともに魅力ある学校づくりを進めていくことが必要である。ここでの対象校を広げる意味で、「山間部、中山間部、半島部及び交通不便地など、地域の拠点…」と提案する。</p> |

(再編・統合について) 27人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|----|-------|--|
| 23 | 9 | <p>今回発表された稲沢高校、稲沢東高校、尾西高校の3校統合は、学力下位層の高校の統合であるが、今後の中学校卒業生数の減少は、学力下位層のみが減少するのではなく、全体で減少していくため、まんべんなく全体を見据えての再編・統合をすべきではないかと考える。学力下位層の受入れは私学が受け持つという構図につながるのではと懸念している。</p> |
| 24 | 12 | <p>少子化は前から分かっていたことであり、この短年で取り組むのはどうだろうか。また、公私2:1は県の教育施策であり、それに基づいて学校の適正規模(6~8学級)を定め、公私両輪として公教育の役割を果たしているのではないのか。9、10学級を維持して、学級減、生徒減を問題にするのはおかしいと思う。安易に学校をなくさないでほしい。</p> |
| 25 | 14 | <p>学校の統廃合は、地域住民にとって子供達にとって本当に利益になるのか、よく考えていただきたい。地域が寂しくなるだけではないか。若者が減り過疎に拍車</p> |

| | | |
|----|----|---|
| | | がかかるのではないかと。学級定員を減らして存続できる方法を模索して欲しい。 |
| 26 | 15 | 学校の統廃合よりも、学級定員を減らして現在の学校を残すべきである。学校施設の多様な活用方法を実践すべきである。 |
| 27 | 18 | 「県立高等学校の欠員の増加」と「私立志向の高まり」を並列で語っているが、私立高校進学を第1希望にしている生徒の割合は、今年の調査でも18%台にとどまり、「公私＝2：1」に程遠い。「私立志向の高まり」を根拠にして「公立の統廃合」を進めることには反対である。 |
| 28 | 21 | 大規模校を温存したまま、郡部の小規模校をさらに統廃合することは疑問である。学校は地域の文化であり、統廃合を行う際にも、最大限留意されるべきである。交通至便地で大規模校化すると、地域における高等学校の存在は、持続可能な地域づくりとして重要な要であるは、矛盾しているのではないだろうか。県教育委員会として、県全体の教育や文化を発展させる視点に立つべきではないだろうか。根本的立場を見直すべきだと考える。 |
| 29 | 23 | 子どもの学びの保障のためにも、地域に学校は必要であり、弥富市、旧尾西市には県立・普通科は必要である。いま通学している生徒たちの後輩はどこに進学するのだろうか。 |
| 30 | 24 | 商業高校と工科高校を統合するのはどうだろうか。これからの時代、どちらかの性別の生徒のみが多く集まるとい学校をできるだけ統合してみてもと思う。LGBTQにも配慮しやすく、先進的な取り組みになる。各地域で工科・商業両方とも定員割れしている学校は多い。 |
| 31 | 25 | 人気のある高校を残して、生徒募集難の高校を削っていくという統廃合は「行きたい学校を選べない」生徒を多く生むように思う。レベルの高い学校や、都市部の学校だけが残されると、学力に自信のない中学生・交通の便の悪い場所に居住する生徒などは、選択の幅が狭まる。 |
| 32 | 28 | 統合に際して業務量に見合った人数の事務職員の配置が望ましい。さらに、統合完了の翌年度も閉校所属の各種事務処理が生じるため、統合後1年間は人員を維持すべきではないか。予算面では、以前の再編では備品購入費に偏り需用費がほぼ措置されていなかったため、予算を丁寧に編成する必要があるのではないかと。 |
| 33 | 33 | 時代に合わせて、学校が変わることは必要だが、多くの人が学んだ学校を簡単に統廃合すべきではなく、自分の母校が無くなる人のことを簡単に考えていないだろうか。 |
| 34 | 34 | 複合選抜以来、通学距離が遠くなる生徒が増え、交通費なども保護者の負担になっている。できるだけ地域の学校に通学できるようにするとともに、父母負担軽減を図ってほしい。 |
| 35 | 41 | 高校を統廃合する理由として子どもの数の減少や社会のニーズに合わせた学校づくりなどがあるが、統廃合は教育費を削減するためのものである。本当に子どもたちのためを思うなら、子どもの数の減少に合わせて少人数学級にすればよいし、現存する学校で社会のニーズに合わせた学校づくりをすればよいが、子どもたちや県民の本当のニーズは、通える地域に学校があることではないだろうか。 |
| 36 | 47 | 定員割れを起こしているような学校は積極的に統合していき、人気の高い学校は定員を増やして大規模化すべきである。小規模校は教員の数が少なく、学校運営に支障が出る。今は通信高校など多様な生徒に対応できるところができている。公立高校が受け皿になる必要性はないと考える。 |
| 37 | 66 | 私立学校の果たしてきた役割を無視することなく（県立だけでない）高校再編を公私両輪体制の視点で行ってほしい。 |
| 38 | 68 | 激変する社会動向を見て早期な計画発表が必要である。前例にとらわれなく進めてほしい。 |
| 39 | 75 | 統廃合する場合、通学時間の延長を考慮して、始業時間などの変更を検討してほしい。 |
| 40 | 80 | 県立高校には私学に通えない経済的に余裕のない家庭の生徒が通っている。自宅から遠く、学費の高い私学を選べる生徒もいるが、公教育を担う県立学校としては地理的、経済的、あるいは様々な事情から取りこぼされてしまった生徒への教育保障の要となる重要な役割があると思う。今回の計画では辺境の学校が普通科 |

| | | |
|----|-----|---|
| | | の林立している地域の学校に統合されており、通学の交通費も準備できない生徒にとって公立高校へ自転車で通えて、きめ細かい学習環境が整った学校がなくなってしまうことになる。公教育の果たす役割が担えると言えるのか、疑問である。対象になった学校の中には、教育困難校とよばれる学校があり、高校卒業への最後の砦となって生徒の学習を支えてきた。教育困難校では、少人数学級や基礎からの学び直しなど丁寧な学習支援が実践されているが、今後、それらの学校がなくなると、その学校に通っていたような子たちはどうなるのか、という懸念は現場の教員からたくさんあがっている。同じような手厚い指導が可能な他の学校はあるのか、低学力の生徒や特別な配慮が必要な生徒に対応するための教員の定数加配やカリキュラムなどはどうなるのか、非常に大きな問題だと思う。困難校をなくせば生徒の困難さが無くなるわけではなく、一層問題が深まるのではないかと危惧している。 |
| 41 | 88 | 高校再編を考えるにあたり、当該校のPTA、卒業生の組織（同窓会）生徒の意見を聞く機会を設ける必要があるが、実施したのか。また、地域の議会、商工会、町内会の意見は聞いたのか。生徒の通学圏がどのように拡大し、その範囲の公共交通機関がどうなっているのか調べてほしい。特に、交通費が2倍以上になる地域については、通学費の援助制度や自転車の購入費の援助制度をもうけるのが望ましい。廃止される学校にある卒業記念樹や、記念碑等は廃棄することなく、新しい学校に移設して、保存することを望む。廃止される学校のその後の利用計画について、明らかにしてほしいし、ここにも住民の要求を受け入れる方途を考えてほしい。 |
| 42 | 101 | 定員割れの学校を統廃合し、都市部の人気校の枠を拡大するのは、やや短絡的との印象を拭えない。地域にとって高校生は宝であり、若い世代が日常的にその地域で過ごす風景が失われることは、地域の持続的活力を失わせるのではないかと。 |
| 43 | 102 | 全国的にも少ない愛知県の教育予算を大幅に増やし、少人数学級、校舎の建て替えや施設・設備の整備を行い、教育環境の改善を進め、子どもたちが学びたいと思う学校づくりをするべきである。生徒の学習権や通学を保証するためにも、安易な統廃合はするべきではない。 |
| 44 | 115 | 統廃合により学校に通う距離が長くなり、通学にかかる費用が大変高くなることにははっきりしているため、統廃合することに反対である。 |
| 45 | 120 | 統合して、昔みたいにオール1では公立に行けず、私立にしかないという流れにした方が、私立の方が手厚く指導してくれるというのもあるので、今の子供たちの時代には合っていると思う。 |
| 46 | 125 | 新しい学校が、いわゆる「困難校」レベルの生徒を7クラス分も受け入れたら、どのような学校になるか、そこで働く教員がどんな毎日を過ごすことになるのか、想像されたのだろうか。手にかかる生徒のためには、少人数教育を施し、分かるところから丁寧に教えていかななくてはならないが、それができてこそ、公立高校に信頼が取り戻せるのではないかと。簡単に定員を減らす方向ではなく、現場の先生方にも話を聞き、あるいは地域の方々や保護者の方々にも意見を伺いながら、愛知県の目指す教育を再構築してほしい。 |
| 47 | 126 | 今回の高校再編案は、尾張地区がメインの統合だが、三河地区の再編案はあまりないように見受けられる。今後子供の人口が減ることが予想される中、尾張地区のみ的高校統合案にとどまったことは、疑問に思う。また、三河地区、特に豊田市周辺などの高校の統合を新たに発表する計画なのだろうか。 |
| 48 | 133 | 高校がなくなること通学に時間が要し、生徒にとって通いづらい環境になることは容易に想像がつき、また、卒業生にとっても、母校を失うことは、人生の土台を失うのも同然である。当面の赤字を避けるための措置に反対する。 |
| 49 | 134 | 学校再編のためにスクールバスの運用も検討して欲しい。 |

2 募集計画について

<県の考え方>

大規模校と小規模校の差を解消すべきではないかなど、募集学級数・進学見込率・公私比率など募集計画についての御意見がありました。

適正規模についてですが、平成11年に「県立高等学校適正規模等検討会議」を立ち上げ、平成13年3月に、活力ある教育活動を展開し適切な高等学校教育を行うため、ある程度の学級規模を確保することが必要であることから、1学年当たり6～8学級程度を適正規模として、最終報告をしました。その後、平成13年11月「県立高等学校再編整備基本計画」では、標準規模を1学年6～8学級として、平成22年度まで再編を進めてきました。

今回、再編将来構想を策定するに当たり、各校各学科には、地元の生徒の進学ニーズへの対応や、地元企業への就職、様々な事情を抱える生徒へのきめ細かな指導など、その地域における役割があるなどの御意見があり、適正な募集学級数は、各校各学科で異なるものと考えております。そこで、地域ごとの中学校卒業生数の推移や、中学生の進路動向等を総合的に勘案するとともに、地域における各校各学科の役割を踏まえながら、県立高校の募集学級数を策定していきます。

また、全日制計画進学率は、全日制進学希望率（9月）が93%を下回るなど、計画進学率の見直しが必要な状況となったことから、公私間で協議し、今回見直しを行いました。今回見直しした全日制進学見込率ですが、全日制進学希望率（9月）と全日制実績進学率の中間値を過去5年平均して算出するものとし、現在の中学生の進路実態により近いものとなっております。

公私比率については、従来どおり国公立2対私立1のままとしておりますが、今後も、中学生の進路実態を注視し、全日制進学見込率や公私比率の見直しが必要な状況となれば、今回と同様、公私間で協議していきたいと考えております。

なお、今後、募集計画を策定するに当たり、今回いただいた御意見も参考にさせていただきます。

<御意見の概要>

(募集計画について) 23人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|----|-------|---|
| 50 | 5 | 再編の対象となっている高校を見ると、いずれも小規模校で、いわゆる困難な事情を抱えている生徒が多い学校である。成績上位の学校が8クラスをこえる規模で維持されている一方、下位の小規模校が「淘汰」されていく。市場競争の原理が働いてはならない学校現場で、より手厚い「公助」を必要としている生徒たちが切り捨てられている。教育委員会が考えるべきは、小規模校を再編し、大規模校(人気校)との格差を広げることではなく、むしろ大規模校(人気校)の定員を8クラス以下に改め、各地域で社会的責任を負ってきた小規模校の存続を守ること、大規模校と小規模校との間にある格差の解消に努めることではないか。 |
| 51 | 9 | 現状では、毎年の中学校卒業見込み者数に合わせて増減される各公立高校の募集人員が、1クラスの数分での増減となっているが、クラス40人で固定での増減ではなく、もっと細かく増減しても良いのではないか。40人という数字に受験生の不安を煽ることにつながるのではないか。学力上位校や立地条件の良い高校に募集人員を多く設定することで、学力下位層の生徒の選択肢が狭まったり、立地条件の悪い高校へのしわ寄せが発生したりする等が懸念されるため、バランスよく全体の募集人員の調整がされることを期待する。 |
| 52 | 16 | 最も取り組むべきなのは、教員の数を増やし、1クラスの学級定員を35人とし、すべての学校が適正規模で運営されていくことだと思う。なぜ、偏差値の高 |

| | | |
|----|----|--|
| | | い高校のみ 10 クラスにし、定員を増やすのだろうか。定員割れの学校ができているのであれば、すべての公立高校を適正な 6～8 学級にしてほしい。 |
| 53 | 21 | 欠員の理由は、計画進学率より実質進学率の方が低いからであり、政策的・構造的問題ではないか。 |
| 54 | 24 | 学力が不足しているのに、定員割れで入学できてしまったが故に、ついていけず、進路変更する生徒も増えている。上位層の手当ても不十分となり、より私立傾向の拍車をかけていると感じる。 |
| 55 | 26 | 愛知県には 1 学年 2～3 学級の高校もあれば 10 学級の高校もある。新型コロナ対策で、大規模校は「3 密」を学校内で避けることは不可能であった。大規模校では空き教室がほとんどなく、少人数授業を展開するのは困難で、教育活動に支障をきたしている。9 学級・10 学級の大規模校を解消することが優先すべきことではないのだろうか。 |
| 56 | 31 | 都市部の高校を大規模化し、周辺部の小規模校を統廃合するものとなっている。このことにより、愛知県内の公立高校の序列化は更に進むことになる。 |
| 57 | 33 | 人口減少地域の高校が持続可能な地域づくりに重要としながら、都市圏の交通至便地を大規模校化するのは矛盾している。むしろ、大規模校の適正規模を厳格化し、都市圏から人口減少地域への流れを作り、その上で各校の特色化を図る方が理に適っているのではないか。 |
| 58 | 34 | 県内の高校進学を希望する全ての生徒の進路を保障するように、学校の配置や募集定員を決めてほしい。不登校経験者や日本語を母語としない人の進路保障にも留意してほしい。 |
| 59 | 36 | 交通不便な場所で 3 校を統合すれば、より募集困難に拍車がかかる。また、上位校のクラス数を増せば、ますます偏差値格差が拡大し、施設設備の不十分な中位校の欠員が増加するだけではないか。2,600 人以上の欠員は、進学希望者と進学者数の乖離から生じたもので、定員数の設定が間違っている。今までそれは私学が被ってきたものであり、恒常的に欠員は出ていた。おおむね公私 2:1 で設定していることが明記されているが、県立の数字のみが示されており、市立や私立も資料として数字上は掲載する必要があるのでないか。 |
| 60 | 37 | 都市圏では交通至便地で大規模校化する方法も検討すべきとあるが、進学実績があり、生徒募集が順調な学校の学級数を増やすことだとすれば、入学の間口が広くなり、入学をする生徒の学力格差も広がり、下位層の進路指導にリソースが割かれ、従来行っていた上位層への指導が十分にできなくなり、進学実績が下がることも予想される。また、人気の高校の学級数を増やすことは人口減少地域の生徒減をますます推し進めていることになる。公立と私立の比率が 2:1 とあるが、中学生で第一志望を私立にしている生徒は 20% を超えていない。募集の仕方について見直すべきではないか。 |
| 61 | 40 | 学校規模は、適正規模を維持すべきと考える。上位校・大規模校をさらに定員増することにより、結果として県立高校の欠員を増加させ、交通の便が悪い地域の学校や小規模校を統廃合へと進めることになる。結果としてさらに、都市部や大規模校集中となる。県立高校の役割を果たしていないと思う。 |
| 62 | 47 | 通信制などを選択する中学生が増えているにもかかわらず、なぜ実態と違う数値を設定するのだろうか。定員割れを起こして中学生に公立高校の良さが十分に伝わっていないと言われるのは、現場にとって理不尽である。実態にあった定員の設定を希望する。 |
| 63 | 49 | 私立高校は、長い間（そして今も）、常に、定員割れに怯えながら生徒募集に取り組んできたが、公立高校は公立優位の地域性に甘えていたのではないか。この構想では、公立内での学校の序列意識が見える。公立の定員割れの原因は、公立上位校の定員が多いことに起因するのではないか。定員が割れなかった学校も、第 2 志望合格者がもっと入学していれば状況は違ったはず。定員割れは、公立の第 1 志望校によって引き起こされたものではないか。私学無償化によって私学志向が増えたと言っても 9 月の志望調査では 20% 未満であり、公私 2:1 なら私学希望者が 30% を超えて初めて、私立に奪われて定員割れと言えるのではないか。 |
| 64 | 57 | 公立高校の定員割れが議論の出発であるが、倍率の高い公立高校も依然としてあ |

| | | |
|----|-----|--|
| | | り、公立高校内での人気の偏りの問題である。それこそ、学校により異なる普通科の魅力・特色が中学生に十分に伝わっていないとの指摘通りである。にもかかわらず、前回の再編における適正規模に縛られずとしていては、結局、倍率の高い高校が肥大化するばかりであり、高校の序列化に他ならないのではないか。 |
| 65 | 58 | 適正規模を守り、上位校を例外とせず、9学級以上の学級を8学級に適正化すべきである。それをしないため、反動によって、一部公立高校で定員割れが増えていたのであって、統廃合で解決すべき問題ではない。 |
| 66 | 78 | P32 第2章〈各地域の現状と課題〉1名古屋地区の現状と課題にある文案の修正を提案する。「現状では、生徒募集状況が良好な学校が多いものの、志願者数の学校格差は広がっている。今後の生徒数の減少に備え、中学生に県立高校が積極的に選択されるような」 |
| 67 | 81 | 計画進学率の施策は、愛知県の地方行政計画に位置付けられ、全日制高校への進学率を文字どおり計画的に引き上げていくものであった。中学生は基本的に減少し続けているので、前年度の定員を維持すれば計画進学率は引き上げられるが、そのままにされたことにより、計画進学率が中学生の希望を挫くものとなり、その結果、全日制進学率が低下した。中学生急増期に高校を新設せず、私立専修学校高等課程に頼った結果が、計画進学率の引き上げを阻んでいる。構想公表の翌日には、令和4年度愛知県立高等学校生徒募集計画を発表し、全日制進学見込率は91.5%とし、公私受入比率は従来どおり国公立2対私立1としたとあるが、計画進学率から進学見込率に変わったことに関して、高研協を開かなかったのはなぜか。私立高校授業料の実質的な無料化も実現した。今後進めるべきは、高校進学希望者の全員入学の施策であり、遠くない将来には高校の義務制への移行の政策である。教育行政が今やるべきことは高校の統廃合や進学見込率の計算ではないのではないか。 |
| 68 | 81 | 進路選択の多様化、広域通信制高校への進学希望者の増加とあるが、県教委は1980年代の中学卒業生急増期に高校を増設せず、広域通信制高校と技能連携する私立専修学校高等課程を全日制高校の代替とした。広域通信制高校の認知度が高まり、全日制高校への進学を希望する生徒の比率がさらに低くなる傾向にあるとあるが、1980年代後半以降、中学生を専修学校高等課程＝広域通信制高校に入学せざるを得なくしたのは県教委で、ダブルスクールの費用負担、施設設備の問題等を考えれば、自発的に専修学校を選択する中学生が多いはずがないと思う。 |
| 69 | 83 | 県立高校は、各地域の教育を支える重要な存在であるだけでなく、地域の活性化を担う重要な拠点でもある。都市部の県立高校の定員を減らすことなく、周辺地域の県立高校の統廃合をすることで、子どもの減少に対応しようとしているが、県立高校が地域からなくなることは、今後の衰退化を加速させることにつながる。卒業生にとっても、人生が否定された気持ちになる。学級定員を減らしたり、またはクラス数を減らしたりすれば、地域の活性化に欠かせない県立高校を存続させることが可能ではないのか。 |
| 70 | 106 | 県立高校の序列化へ反対する。人気校、上位校への募集枠を増やし、公立高校の温存を第一に考えた施策である。公立、私学との共存、両輪体制を大切にし、私立高校と上位校のすべり止めの存在であることを強いる施策に反対である。公私共に切磋琢磨しあって、生徒にとって自由にプライドを持って選択できる選択権を保障してもらいたい。公立の生徒にとっても序列化された学校に自信とプライドを見出せず、消去法で選んだ学校選択になることを危惧します。 |
| 71 | 110 | 少人数による丁寧な教育や、教員がもう少しゆとりをもって生徒に向きあえるような生徒規模にするなどを、今こそ考える時ではないかと思う。知多地域で300名近くの定員割れがおこっているが、そもそも知多半島の人口と学校数がマッチしているのか、仮定の進学率が適切であるのかをきちんと検証してはどうか。さらに、上位校のクラス数については8クラス以上を維持しているのに対し、中下位校についてはクラス数を減らしているアンバランスさがあるように見受けられるが、そのような学力レベルの中学生の進学先はどうするのか。 |
| 72 | 123 | 計画進学率は見込みとは本質的に異なるものであり、全日制高校教育の機会を保障するだけではなく、これを高める努力を棄ててはならない。 |

3 新たなタイプの学校の設置について（犬山南・御津）

<県の考え方>

新たなタイプの学校の設置として、犬山南高校と御津高校について、御意見がありました。

犬山南高校と御津高校では、生徒募集に苦慮（2021年度欠員：犬山南高校95人、御津高校45人）しております。そうしたことから、今の学校を一新したいという思いから提案されたものであり、それを今回の発表で実現する形となりました。

今後、具体的な内容について検討していくこととなりますので、今回いただいた御意見も参考にさせていただきます。

<御意見の概要>

（犬山南高校について） 3人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|----|-------|--|
| 73 | 27 | 犬山南高校より、普通科と総合ビジネス科を併せ持つ犬山高校のほうが良いのではないかと。さらに、犬山高校と犬山南高校を統合して、犬山高校に新しい学科を設置してはどうか。犬山高校総合ビジネス科については、商業の学科改編に触れていないことも残念である。 |
| 74 | 78 | 民間企業、地元自治体との連携・外部委託について、検討事項は現段階でも例示しておくべきではないかと。「学校の抱える課題の一つとして、交通不便地の立地環境があり、生徒は徒歩・自転車では通学できない。例えば、この課題に対しては、民間委託等によるシャトルバス、又はスクールバスの運行事業を検討するなど、新たな学校の運営を支える民間企業、地元自治体との連携・外部委託を進める。」と修正する。 |
| 75 | 134 | DX人材育成などは、学科名が分かりにくいので、中学生に分かりやすいサイトがあると良いと思う。具体的にやるのが分かるように。 |

（御津高校について） 5人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|----|-------|--|
| 76 | 4 | 令和5年度に御津高（豊川市）の校名変更予定と記載があったが、私は賛成。御津と書いて「みと」とは、なかなか読めないこと、旧宝飯郡・御津町はなくなり豊川市となったことから、この再編を機に、校名変更は、ちょうどいいのではと感じている。校名変更する際は、ぜひ、誰が見ても読める校名にさせていただきたい。例えば「豊川西高」とか国際教養科（旧英語科）に力を入れている観点から、そして、豊川市だけではなく東三河地域を代表する、国際教養科のある学校ということで「東三河国際高」と言った感じで、誰が見ても読める校名にいただければと思う。 |
| 77 | 10 | 外国にルーツを持つ生徒、ヤングケアラーの生徒、家族に問題のある生徒などが辞めていく、あるいは原級留置するのは、あまりに気の毒である。従来型の「学年制」ではない、刈谷東高校や御津高校のような「単位制」や「通信制」の学校が増えることは賛成である。知多地域や西三河地域にも1校ずつあれば、事情を抱えた生徒は高校で勉強をしやすくなる。「3年で卒業しなければいけない」と誰が決めたのか。単位制で時間がかかったとしても、5年かかろうと6年かかろうと、やり切ったほうが良い。全単位を満たしたら、その時点で卒業でも良いだろう。そんな困難を抱えた生徒の支援体制も、もっと充実させてほしい。誰も取り残さないでほしい。 |
| 78 | 11 | 御津高校の学校名変更について、開校以来35年間慣れ親しまれた学校名を変更する合理的理由を示してほしい。新学校名の案については愛知県教育委員会が一方的に決定することなく広く県民の意見を聞く機会を設けてほしい。 |
| 79 | 103 | 外国籍の子どもの高校進学率が低く中退も多い現状から、彼らの受け入れを積極 |

| | | |
|----|-----|---|
| | | 的に支援する高校ができるのは大歓迎だが、そのために民間企業との連携・外部委託を進めるのは疑問に思う。 |
| 80 | 116 | インクルーシブな学校を、御津高校1校に限定せず、各地区に配置すべきである。御津高校は、特別な支援が必要な生徒も受け入れるとあるが、障害の種類や程度などの条件をつけては、真のインクルーシブにはならないと思う。蒲郡の夜間定時制では、日本語によるコミュニケーションが困難な生徒は定員内不合格になっているようだが、今後そういった生徒を御津の昼間定時制で受け入れることになるのか。だとしても、定員が20名だと定員超過で不合格になる可能性があり、結局受け入れ先がなくなってしまうのではないか。今後も欠員が多数でることが予想されるのであれば、希望者全入にすべきである。 |

4 商業高校のリニューアルについて

<県の考え方>

商業科は、他学科に比べて欠員の割合が急増しております。その一つの要因として、「商業高校卒業＝事務職への就職」という昔からのイメージがあり、事務職へ就職するために商業科へ進学する必要性が、中学生や保護者に分かりにくくなっていることが考えられます。しかし、商業科の卒業生の半数以上が、様々な職種に就職しており、また、4分の1以上の生徒が専門学校へ進学するなど、約8割の生徒が早期の就職を目指しております。

また、簿記・情報処理などの資格取得に資する教育を積極的に進め、検定の合格実績等を積み重ねるなど、地域の企業で活躍する人材の育成を担ってきましたが、急速なグローバル化の流れの中で、自ら考え、行動することのできる主体性や協働性を身に付けた人材が求められており、実際のビジネス現場での活動を体験し、「ビジネス現場で主体的に行動できる人材」の育成につながるような、実践的な学びをより一層充実していくことが必要となっております。

そうしたことから、これまでの商業教育の質を維持しつつ、時代に合わせて見直すべきところは見直し、さらに商業科のイメージを刷新するという、商業高校のリニューアルが必要であると考えております。

今後、校名変更を含めて、具体的な内容について検討していくこととなりますので、今回いただいた御意見も参考にさせていただきます。

<御意見の概要>

(商業高校のリニューアルについて) 6人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|----|-------|---|
| 81 | 6 | 商業高校の IT ビジネス科は、近隣の工科高校と連携することも視野に入れるべきである。工科高校と並んで「商科高校」とすべきではないか。 |
| 82 | 47 | 愛知県の商業科は全国 1 位の生徒数があるのに、身だしなみや言葉遣いなどマナーを身に付ける指導が中学生に受け入れにくくなっているとある。家庭の事情から身だしなみや言葉遣いをしっかりと指導してもらい早く社会に出たいという保護者の需要は少なからずある。商業科の定員を東京と同程度にすれば、この需要を満たした生徒だけで充足するのではないだろうか。 |
| 83 | 54 | 商業高校の再編にあたって企業が求める人材育成が大きく掲げられているが納得できない。社会は変化していくものであり、高校教育では、どんな変化にも対応できる柔軟な人間を育てることが大切である。そのため、学問の基礎基本、人間としての原理原則をしっかりとつかむ必要がある。目の前の企業社会に適応する（流行）では、人格を育てること（不易）はできないし、将来の社会発展を生み出す人は育たない。また、学科名を変えるなかで、商業高校を「国際」と「地域」に分けることは、どの子にも機会を保障するのではなく、入口で差別する姿勢と言えるのではないか。 |
| 84 | 77 | 商業科の改編は、学校の序列化につながる計画であり、問題があると思う。どこの学校でも同じ教育を受けられるようにすることが公教育の役割であり、高等学校は専門学校や職業訓練校ではないと思う。 |
| 85 | 78 | 「一方、企業倫理を身に付ける商業教育は、人間形成の上でも重要な倫理観を育む、すべての高等学校の取組としてふさわしいキャリア教育である。今後は、商業教育を範とした倫理観を育む教育活動すべての高等学校で導入することにより、商業科の存在感を高めることが重要である。」との修正を提案する。 |
| 86 | 126 | 商業高校に IT ビジネス科を作るのもよいことだと思うが、それを使いこなしていく技能も必要だと思う。クルマや農業機器、家電までが繋がる中で、やはり使 |

| | | |
|--|--|---|
| | | いこなしていく人材を作るために、そういった機械を学ぶことに特化した学習過程を作るべきだと思う。 |
|--|--|---|

(愛知商業高校について) 8人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|----|-------|---|
| 87 | 3 | 伝統ある事務科が廃止されることは寂しい限りだが、時代の進展の中でやむを得ないことだと感じている。NHKでも、愛知商業高校の現在の様子が放映されていたが、公立高校離れ、商業高校離れが叫ばれる中、これまでの伝統も大切にしつつ、構想案の趣旨を踏まえた新たな取組に挑戦されている様子が理解できた。ただし、校名については愛知県、日本を代表する商業高校が愛知商業高校として、工業高校のように小手先で校名を変えることなく、どっしりと構え、愛知商業高校のまま、教育内容の改善に努めていただきたいと切に願う。愛知商業高校の校名変更には反対する。 |
| 88 | 17 | 愛知商がなくなれば、地域経済や地域の商店街の衰退につながる。地域を支える人材を育成する場所として、商業高校は絶対に必要である。校名変更はありえない。愛知県の中心として、代表高校として、伝統を積み重ねてきた。愛知商の校名を絶対に残してほしい。 |
| 89 | 60 | 愛知県立愛知商業高等学校の校名変更について、是非、学校名を残したい。「愛商五十年誌」を紐解くと、学校名に対する思いが伝わってくる。愛知商業は、「愛知県にある商業高等学校」という意味で、「愛知県立商業学校」として設立された。その設置過程を辿ると、他の商業高等学校の校名とは一線を画すと思われ、愛知県の代表商業高等学校（中心校）としての存在意義がある。校名に対する思いは、愛知商業の卒業生という視点だけではなく、愛知県に設置されている商業高校という意味においても、残す意義があると考えられる。 |
| 90 | 76 | 愛知商業は、100年の歴史を有しており、今現在も商業教育の中心として優秀な生徒を輩出し続けている。校名は単なる名前ではなく、伝統と格式を包含した意味を持つものであるため、愛知商業の校名の変更には賛成できない。 |
| 91 | 85 | 経済社会とリンクした実践的な商業教育へのリニューアルということで、学科改編は必要なことだと思うが、100年の歴史があり、県を代表する商業高校として愛知商業高校という校名は、是非、残していただきたい。 |
| 92 | 108 | 愛知商業を今の学校名のまま残すのを希望する。2019年に百周年を迎えた伝統のある学校で、文部科学省研究指定校にも認定され、愛知県を代表する商業学校だと思う。 |
| 93 | 127 | 愛知商業高校の校名には深い愛を持っており、校名変更は慎重にしてほしい。学校でも、校長をはじめ教職員一同で新科目への挑戦、改革等を進めているようで、同窓会でも応援するところである。校名変更になるようでも【愛商】の称が、残るようお願いする。 |
| 94 | 128 | 愛知商業高校の校名は変更せずに残してほしい。今の時代に即した名前もいいかもしれないが、愛知商業高校は伝統校であり、その校名には歴史と重みがあるので、なくしてほしくない。 |

5 定時制・通信制

<県の考え方>

定時制・通信制についての御意見がありました。

昼間定時制につきましては、県内5校となっていますが、志願倍率が高いことや、刈谷東高校が大規模化していること、配置バランスが悪いことなどの課題がありますので、県内全域にバランス良く、生徒が通学しやすい立地や規模を考慮しながら、さらなる設置について検討していきます。

また、夜間定時制につきましては、日本語によるコミュニケーション能力が十分に身に付いていない外国人生徒が多く在籍していることなどから、これからの時代や生徒のニーズにあった夜間定時制の在り方について検討していきます。

さらに、通信制につきましても、広域通信制高校を選択する生徒が増加しており、一部の広域通信制高校では、教育の質が問題となっていることなどから、教育の質を維持しつつ、生徒の多様な学習ニーズに対応した、公立通信制の在り方を検討していきます。

このように、定時制・通信制については、今後、在り方等を検討していくこととなりますので、今回いただいた御意見も参考にさせていただきます。

<御意見の概要>

(定時制・通信制について) 6人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|----|-------|--|
| 95 | 6 | 昼間定時制は、知多地区に無く刈谷市まで通学しなくてはならない。刈谷東高校だけに集中するのではなく、知多地域、海部地域、豊田加茂地域に分散させて配置すべき。通学に時間がかかるとさらに不登校になることに拍車がかかる。不登校生徒のために、昼間定時制と通信制（オンライン受講による）の両方を充実させ、生徒の選択の幅を増やすことにより、授業に参加しやすくすることが良い。 |
| 96 | 65 | 各高校で中退者は必ずいることから、尾張地域に通信制高校の設立はどうか。立地は公共交通機関を考慮すると、津島北高校の利用が適切かと思う。ほとんどの生徒が私立の通信制高校を選択しており、公立高校の通信制の増設および、編入制度の見直しが必要。 |
| 97 | 98 | 構想案の定時制通信制高校の部分には以下の項目を明記していただきたい。定時制通信制高校のこれ以上の募集停止を行わないこと。定時制課程のクラスあたりの募集人員を20名以下、当面は30名以下にすること。私立広域通信制高校については、公立の定時制通信制高校と公平な棲み分けになるよう、中学校の進路指導にも配慮させること。昼間定時制課程の学校規模を段階的に縮小し、定時制高校の大規模化を計画的に解消に努めること。定時制通信制高校の相談体制の充実のため、カウンセラーやソーシャルワーカーを優先的に配置すること。経済的事情によって通学を断念することのないよう、行政からも支援のための制度を充実させること。日本語を母語としない生徒の入学が今後増加していくことが予想されることから、多文化共生社会に向けた教育施策・制度を充実させていくこと。県立御津高等学校で予定されている、同一敷地内での全日制単位制高校と昼間定時制課程の併置案について、教育的観点から再考していただくこと。 |
| 98 | 103 | 日本語能力が不十分な外国籍の子どもの進学先として、夜間定時制があるが、定員割れしていても彼らにとって大切な学校であるので、募集停止にしないでほしい。昼間でも彼らのニーズに応える高校を作ってほしい。遠距離通学は時間も交通費もかかるので、あちこちに作ってほしい。少人数指導で、日本語指導を充実してほしい。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置を充実してほしい。不登校経験者は人とかかわりが苦手な人が多いと思うので、少人数指導でお願いしたい。添削指導も、オンラインでできるといいと思う。スクー |

| | | |
|-----|-----|---|
| | | ルカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置を充実してほしい。 |
| 99 | 104 | 定時制、通信制、全日制単位制について、知る機会が少ないように思うので、説明会などがあると良い。生徒たちが公認心理士やカウンセラーなどに相談しやすくするなど、留年率や中退率を下げる工夫を検討してはどうか。 |
| 100 | 123 | 広域通信制高校の認知度が高まりという評価について、広域通信制に独自の役割があることは理解しているが、高校教育としての質については、従来から問題があり、最近では文科省においても是正を求める動きがある。これまで、特区のため、他都道府県の本校があるため、など様々な制約もあり、愛知県が広域通信制の授業実態、運営実態をきちんと確認してこなかったと思われる。広域通信制への進学者比率が高い愛知県においては、より一層、県による調査・指導が行われる必要がある。 |

6 外部の専門機関との連携

<県の考え方>

県立高等学校の一層の魅力化・特色化、再編の方向性にあるポイント5の外部の専門機関との連携について、御意見がありました。

今後、県立高校の魅力化・特色化を持続的に行っていくためには、学校の教職員の力だけでは限界がありますし、常に社会の変化に対応できるよう、民間の活力の導入も検討していく必要があります。

そのため、新たなタイプの学校づくりを進める犬山南高校と御津高校をモデルケースとして、外部の専門機関との連携を検討していきます。

新たな取組であることから、具体的な内容は、今後検討していくこととなりますので、今回いただいた御意見も参考にさせていただきます。

<御意見の概要>

(外部の専門機関との連携について) 6人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|-----|-------|--|
| 101 | 8 | 部活動の外部委託を早期に進めること。部活動は、一部教員にとっても魅力的な課外活動で、それが学校に来る理由の一つになっている生徒がいるが、運営を教員が行うのは、時間外労働を常に行っているもの。学校の根本である教科の指導にかける時間を奪っている。 |
| 102 | 71 | 障害者、LGBTQ、外国籍の方、貧困や不登校など様々な生きづらさを感じている子どもたちと支援団体を繋げ、サポート体制ができる仕組みにしてほしい。教師の負担軽減のためにも、外部の民間企業、支援団体を積極的に活用して子どもたち一人ひとりが必要なサポートを十分に得られるようにしてほしい。 |
| 103 | 87 | 地域と繋がる高校にしていきたい。高校卒業後、社会に対応した即戦力を育成するためにも、地域を学習のフィールドとして利活用する方針を示して頂きたい。福祉・小売り・各種サービス業・製造業等あらゆる分野でDX化が進む今後、学校内に留まらず、地域と繋がる事でウィンウィンの関係構築を目指してほしい。 |
| 104 | 104 | <ul style="list-style-type: none"> ・企業等外部機関との連携に関すること 夏休みなどに生徒達がインターンシップに参加できると良いのでは。教員以外のいろんな職業に就いている社会人の話をリレー形式で聞ける授業があると良い。様々な雇用形態があることと、その違いを、社会に出る前に知っておいてほしい。外国にルーツを持つ生徒などの特別な支援が必要な生徒達のサポートのために、NPOとの連携を検討してほしい。 <ul style="list-style-type: none"> ・大学・専門学校との連携に関すること 高校入学時点で大学・短大・専門学校の違い、指定校制度がある大学・専門学校の紹介やたくさんある入試制度の紹介をしてもらいたい。オンラインなどを使ってその学校の職員が行ってくれれば良い。 <ul style="list-style-type: none"> ・人材の確保、組織体制、学校運営に関すること 民間で働いたことがある人材や、元不登校だった人材、外国にルーツを持つ人材、障がいを持つ人材など、高校生の間に多様性に触れられる人材登用をしてほしい。有志の人が登録できる人材バンクの運用などはどうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・部活動、課外活動に関すること 他校と連合チームを作ったり、外部コーチを積極的に活用したりして、多彩な部活動を行えるようにしてほしい。 |
| 105 | 114 | 県立高等学校の一層の魅力化・特色化、再編の5つのポイントにおけるポイント2：生徒が主体的に学べる学校づくりは、2022年度より本格実施となる総合的な |

| | | |
|-----|-----|---|
| | | <p>探究の時間をいかに活用するかが重要である。机上の空論で終わらない探究活動となるよう、ポイント5：外部の専門機関と連携した、持続可能な教育体制を構築する、の中にあるように、地域のステークホルダーと協働・連動した学びを構築する必要がある。しかし、こうした教育活動の下地づくりとして、教員の多忙化に繋がる可能性も高い。そこで、教育についての知識を持ち、教員とともにカリキュラムデザインを行うことができ、学校と地域のステークホルダーを適切に繋げられる「キャリア教育コーディネーター」といった外部人材を、総合的な探究の時間の内容構築・運営・ブラッシュアップにも、ぜひ活用してほしい。</p> |
| 106 | 134 | <p>進路相談について、外部の人材を常駐させて、先生や親以外の相談できる相手を置き、生徒の安心感や先生の負担軽減につなげる。外部の企業が連携するメリットを、学校が提供出来るようになれば、企業からの協力も得られると思う。</p> |

7 魅力化・特色化について

<県の考え方>

学科改編やPRなど県立高校の魅力化・特色化の様々な方策等について、御意見がありました。

今回、構想を策定するにあたり、検討委員会の委員を始め、各県立高校長、市町村・地域の関係者から、今後の中長期的な県立高校の魅力化、特色化、再編に関する取組の方向について、数多くの意見や提案をいただきました。

その内容は、すぐに実現可能なものから、今後の検討や研究が必要なもの、アイデアレベルのものまで、様々なものとなっています。

来年度以降も継続的に、県立高校の一層の魅力化・特色化、再編に向けた具体的な取組を検討し、順次、公表していくことを考えておりますので、今回いただいた御意見も参考にさせていただきます。

<御意見の概要>

(魅力化・特色化について) 30人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|-----|-------|--|
| 107 | 1 | 様々な高校で特色を出す中で、イメージが出来上がっているように思う。特色を出すのも大切だが、その文言に統一感がありその学科で学べる内容を具体的にし、その先の将来がある程度明確になることが必要だと考える。また、スポーツなど専門的な指導に関しては、高校の教諭が長く指導に当たる必要もあり、その形も一般的にしていく必要はあると思う。公立高校のPRについて、各公立高校の特色は県教育委員会、HPを見ることでしか知り得ないのが残念。生徒の体験入学はあっても、相談する保護者・学校の先生・塾の先生が知り得なければ、偏差値・立地によって判断されることも、増えると考え。「理数科とは」「化学工業ってその先の進路は」「あの普通科から大学は行ける」「総合学科って結局どんなことするの」など、特色が伝わっていない可能性があると思うので、そのPR方法を見直す必要もあると考える。 |
| 108 | 6 | 生徒減少による空き教室を有効活用することも考えるべきである。民間進学塾に賃貸や地域活動の場とするなど県財産の有効活用を図るべきである。その計画の策定に、商業高校生のアイデアを活かすのも良いのではないか。 |
| 109 | 7 | 10 ページ普通科の現状と課題で、「～学力レベルに偏って学校選択がされる傾向にある。」というように、既に現状において学力レベルによつての序列化が存在していることを認めながら、それを解消する再編でなく、特色化という形で学校の役割をさらに固定化することは、さらなる学力レベルによる序列化につながっていくものである。そして、序列化は多くの生徒の意欲を削ぎ、自己肯定感の一層の欠如へと向かっていくことになることが懸念される。愛知県は、公立高校重視の姿勢を感じる。公立の入学者が減っていることは事実だろうが、私立高校入学者は、未だ、公立高校入試不合格者が一定数いる。愛知に住む高校生のためにも、公立高校と私立高校がより共存していく方策を県の教育委員会も取っていく必要性を感じる。 |
| 110 | 16 | 愛知県の輪切り、序列化教育がさらに進むような再編に反対である。特色化とあるが、学力差により、子ども達をきれいに振り分け、できない生徒が集まる学校が生まれている現状を加速化させることになる。定員割れの学校をつぶし、統廃合することもおかしいのではないか。 |
| 111 | 20 | 中学生に県立高校を選んでもらえないという現状を前提にしているが、一部の人気校の倍率が高くなっているのが現状である。小手先の統廃合で再編するよりも、中学時点で偏りのない進路指導をすることが先決ではないか。 |
| 112 | 23 | 魅力化・特色化の押しつけではなく、内からの魅力化・特色化を進めるべき。 |

| | | |
|-----|----|--|
| | | 様々な個性をもつ子どもたちが、自由に学べる柔軟なカリキュラムが可能となる学校づくりこそ必要である。 |
| 113 | 31 | 特色化という形で学校の役割を固定化し、序列化を固定するよう見える。このことにより、生徒たちが行く学校毎に差別感が助長される。底辺校に通う生徒には深い劣等感が刻まれ、そうでない学校の生徒には途方もない優越感が生れる。そして生徒たちの学ぶ意欲が削がれていくことが強く懸念される。 |
| 114 | 36 | 一層の魅力化・特色化は、公立にしかできない改革があるので、大いに取り組んでほしい。 |
| 115 | 38 | 県立高校の再編について、生徒数が減っていくことを懸念されているが、よく見ると大きな減少ではないと考える。魅力を上げることは全く悪いことではないが、それを理由にあまり急激な変化を起こす必要はないのではないか。海外の教育制度や現場を見てみても、先の戦争の反省からも、国内に公立学校と私立学校が両方存在し、子どもたちが自由に選べるのが最大に重要なことであると考ええる。愛知県には生徒数を公立と私立に2対1にするという制度がある。最低でもこれを守ることが、多様性と寛容さを育て豊かにすることでもある。税金が同等に使われていない現在、私立の方が公立よりも立場が弱いと思う。 |
| 116 | 40 | 規模の変化や特色化が、学校の序列化を進めることにもなる。改革の必要性は感じられるが、この案では、愛知県の教育の改善には繋がらないと考える。 |
| 117 | 50 | 県立高校の大規模な定員割れは、必ずしも少子化だけが原因ではないと思う。私立の歯止めをかけ、県立高校に予算を惜しまず、クラス数維持や教員定数増により、行き届いた教育活動が行えるようにするのが正しいのではないだろうか。学校を少しでもよくしようと働いてきた職員、卒業生（＝同窓会）、在学中の生徒の意向を考えない統廃合は行われるべきではない。教育は何のために、誰のためにあるのか考えてほしい。公立だからという制約により、職員は多忙で、名門私立みたいな魅力的な学校ができるとは思えない。 |
| 118 | 52 | 統廃合ではなく、少人数学級、校舎改修等により、中学生が入りたくなるような魅力ある県立高校を作るべき。「工業高校」を「工科高校」に改称する必要があったのだろうか。雨漏りなど老朽化している学校では、中学生は入りたいとは思わないのではないか。 |
| 119 | 53 | P21 ページ 5 家庭科に、違いが分かりにくい「家庭科」と「総合学科の家庭科系列」の差別化が必要とあるが、「差別化」には、一方を高く、一方を低く扱うことと、同類の他のものと違いを際立たせること2つの意味があることから、無用の誤解が生じないように、「特色化」と表現を工夫したほうが良い。 |
| 120 | 55 | 管理教育を止めること。軍隊式や従順させる教育は時代遅れで「多様性・自主性尊重」などグローバル感覚とは真逆である。学校の特色化の前に、基本である教育の在り方を見直すべきである。 |
| 121 | 61 | 私学との差別化として魅力ある学校を目指し、下記のような具体的な改革や取り組みを提案する。 ①学区制の撤廃 ②教師の公募制（同校勤務時間の柔軟な体制づくり）（カリキュラムの工夫） ③学校の特色を出すための特別優遇制度（進学指導重点校、進学指導推進校、進学指導特別推進校） ④入学試験の比重の改定（試験7:3内申等）本質的な学びに迎えるよう過剰な自主学習の負担の原因となっていないか再考 ⑤自校作成の入学試験問題（一律試験のみに頼らず、点差や特色のあるもの） ⑥講師制度や、企業、高等教育機関及び海外機関との流動的な関わりを持つことで、インプットとアウトプットが実社会とつながることができる質の高い学びの環境を創出すること。 |
| 122 | 65 | 高校魅力化プロジェクト等、民間や文科省への協力を検討することも一理ある。 |
| 123 | 67 | 私立と学費の差が無くなったことも一つだが、県立学校そのものの魅力がなくなったのではないか。県立学校は旧態依然の設備、タブレットを使えない学校、ICT機器を授業などに使わない教員が多い。私立は、エアコンの導入が早く、天吊りタイプのプロジェクタが導入され、全教員がICT機器を使った授業を行い、 |

| | | |
|-----|-----|---|
| | | <p>全生徒がタブレットを使用した学習を行っている。学科名や校名や入試制度が変更されても、設備や施設などが変わらなければ、行かせたい、行きたいと思うだろうか。愛知県の公立高校は、20%程度の学校で、全生徒にタブレットを配備したそうだが、残りの学校は個人のスマートフォンを使用し、経済的に厳しい家庭はタブレットを貸し出すため、クラスの中で誰が困窮した家庭なのか、さらし者になってしまうのではないかと。全員が同じものか、近い性能の物を使うべき。</p> |
| 124 | 69 | <p>部活動などを魅力的にするために、予算を大幅に増やしてほしい。鏝の目立つ道具の更新も順番待ちである。部活動の時間帯に来てくれるコーチについても良し悪しがあるので、色々と考え直してほしい。</p> |
| 125 | 75 | <p>時代の変化に対応する学科の変更はすばらしいが、学校名はできる限り存続させたい。例え校名が長くなっても、一部だけでも以前の校名が入っていることを望む。通学が困難な生徒のための学校として、校舎を持たないリモートによるデジタル高校の開校も良いかも知れない。校舎を共有で使用し、この教室は●●高校の■科などテナントビルのような学校の集合体であれば、学校名を残し、運営の効率化が図れるのではないかと。難しいとは思いますが商業施設の一部を教室とするなど、校舎に拘らなければいろいろなケースが可能になると思われる。</p> |
| 126 | 77 | <p>工業高校から工科高校への校名変更・学科改編があったが、受験希望生徒の改善には至っていないが、この点が今回の学校再編計画には生かされていない。新しい学科や聞こえの良い横文字の学科に改編するよりも、原点に戻り、基礎・基本が学べ、中学生にも何が学べるのかが分かりやすい学科の充実を図るべき。魅力化・特色化の押し付けではなく、内からの魅力化・特色化をするべきです。そのためには教育予算を十分確保して、生徒の様々な希望をかなえるために教職員を増やし魅力化をすすめることが必要。全国的にも低い愛知県の教育予算を大幅に増額してほしい。</p> |
| 127 | 78 | <p>P101 普通科の現状と課題のうち、特に、(4)(5)は全学科に共通する内容である。本章の最初に全学科共通事項を設定するよう提案する。また、(5)の項目又は本文に、追加事項として以下を提案する。「交通不便地に立地する県立高等学校にとっては、スクールバスやシャトルバス等の通学の足を確保することが学校存続のカギである。」</p> |
| 128 | 84 | <p>学校の統廃合がないのに校名を変更するのはどうかと思う。伝統のある昔ながらの名前で良いのではないかと。変えるのであれば旧制中学時代にちなんだ名前など、今風に並べることはないと思う。</p> |
| 129 | 92 | <p>高等学校は専門学校や職業訓練校ではない。原点に戻り、基礎基本が学べ、中学生にも何が学べるのかが分かりやすい学科の充実を図るべき。</p> |
| 130 | 96 | <p>御津高校や犬山南高校の計画は、これまでと違い新たな取り組みとして評価できると思うが、県内の高校を希望する生徒が通えるものではないため、一部の高校に「特化」するのではなく、それぞれの住んでいる生活圏内で、どの高校でも対応・配慮がなされるようにすべきと考える。</p> |
| 131 | 100 | <p>短い検討期間であったにもかかわらず、基本方向と急ぐ課題の具現化についての確にまとめられた案だと思う。ただ、公立定員割れ対策が問題視されていたが、他にも追加検討いただきたい事項がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「小中一貫校」の設置を拡大せよ。 統廃合をプラスに転化することもでき、高校再編の前提条件を整える教育制度改革にもなる。幼少年層減少が顕著な都市の空洞化地域及び過疎地域で、生徒総人数の適正化実験を試みるつもりで検討したらどうか。 2. 「受験優先速習カリキュラム」の抑制を促す。 高校で普通に学ぶことが許されないことも「公立離れ」「学校離れ」の一因ですから、新・学習指導要領の探究的学習の拡大を各高校がキチンと履行できているかという課題と並んでチェックしなければならないのではないかと。 3. 中学生・高校生の「地域に生きる問題意識」の育成に尽力せよ。 社会基盤を構成するインフラストラクチャすべてが、教育の地元志向強化によって地域共同体の輪を形作り、自治体・教委のバックアップで小中高の学校を交点にしてつながることになる。 |

| | | |
|-----|-----|---|
| | | <p>4. 県立大・名市大などに工業科・商業科・農業科・福祉科からの推薦枠を高校でしっかり学べば大学推薦枠を確保できると、専門学科への志望者の増加を期待できる。また、多くの職業科高校に新たに専攻科を設けて資格グレードの向上、あるいは大学編入試験の枠をつくれぬか。また、県下の国公立大学などに、専門学科卒業生のスキルアップ課程として接続することはできないか。</p> <p>5. 公立高校にも高大連携授業の拡大をはかる 高い学力水準の生徒がいるところでは、高大連携を利用した授業の採用を考える必要が出てくるのではないか。</p> |
| 132 | 104 | <p>・中学生向けの高校の魅力発信に関すること 学校 HP だけでなく、中学生がよく使う LINE, TikTok Instagram や Facebook など活用してはどうか。</p> <p>・学校間の連携教育に関すること 他校の専門科目や海外を含む他校の学校の授業もオンラインなどで聞くことができると良い。</p> <p>・小・中・高連携教育に関すること 小学生のうちに高校入試があることを知らせてほしい。小・中学生が近くの高校を見学できる機会があると良い。</p> <p>・その他 進学実績ばかりでなく、実技や実験を充実させた高校があっても良いのではないか。高校入学時の書類を簡略化してもらいたい。パソコンで作成できるか、オンラインで手続きできるように検討してもらいたい。文理選択の際に文系に進むとどんな進路が想定されるか、理系に進むとどんな進路が想定されるかの説明を丁寧に行ってもらいたい。</p> |
| 133 | 107 | <p>新しい学科や聞こえの良い横文字の学科に改編するよりも、原点に返り、基礎・基本が学べ、中学生にも何が学べるのかが分かりやすい学科の充実を図るべき。</p> |
| 134 | 122 | <p>今後、愛知県立の全ての高等学校では、女子の運動部の男子マネージャーを確実に積極的に受け入れてほしい。女子マネージャーだけでなく、男子マネージャーも女子選手を世話することがとても大切だと思う。男女平等を実現するために、女子主体である部活へ、2035年までに、男子を少なくとも5人受け入れる体制が望ましいと思う。進学校に通う多くの生徒が大学進学しないで、専門学校進学や就職する人数を増やしてほしい。このままでは、進学校での専門学校指導や就職指導経験不足、愛知県内の人口減少が深刻につながる。今後、愛知県内すべての進学校及び偏差値50以上の高校（普通科）では、就職指導や専門学校指導に積極的に取り組むことが重要である。普通科（進学校）と普通科（非進学校）と総合学科との差別化をしないことが重要であり、「進学校から就職できるためのガイダンス（仮）」と「進学校から専門学校進学するためのガイダンス（仮）」のそれぞれの小冊子を作って、先生や生徒、保護者に広く知ってもらいたい。</p> |
| 135 | 124 | <p>地方のデジタル人材不足に対応できるように、高校生から将来のデジタル人材育成に対応していくべきだと思う。愛知総合工科高校に、情報・ITコースが新設されることで、期待したいと思う。文化芸術人材育成のために、名古屋市内の県立高校内に文化芸術科を新設して欲しい。美術だけでなく、演劇など幅広く文化芸術を高校生から総合的に学べ、文化芸術に関するエリートを育成できる環境ができると良いと思う。</p> |
| 136 | 134 | <p>普通科と他科のあるところは、生徒の交流や、途中から科の変更が出来る制度があると良い。入学してから進路選択が出来るのも良いと思う。職業観の醸成のために、インターンシップやアルバイトを許可することで、地域の企業とのつながりも作れて、職業観をもって進路選択が出来る。学校の授業で個人のスマホなどが利用できるようにwi-fiなどの環境整備をしてほしい。BYODの授業なども行って欲しい。高卒就職を希望する生徒には、専門的な職業の訓練も学校の間に行って欲しい。適性検査や、自己理解などをキャリアコンサルタントに相談できると良い。キャリアのための講座も開催してもらえると良い。モノづくりの楽しさを実感できる授業を導入して欲しい（伝統工芸なども）。中学生が各学校の魅力を知るためのSNSアカウントがあって、生徒会などが運営したりすると良いので</p> |

| | |
|--|--|
| | <p>は。オンライン授業と対面授業の選択が出来るハイブリット授業があっても良い。受験出来る学校の範囲を指定しないで、オンラインでの単位取得なども検討してもらえると良いと思う。学校の授業を一般公開したり、学校の紹介動画を公開するのも良い。ジョブ型雇用が増えてくる時代に沿ったカリキュラムに変えないといけないのではないか。どうしたら授業が楽しくなるかを考えて教科指導に当たって欲しい。生徒は顧客という観点で学校経営をすべき。</p> |
|--|--|

8 少人数教育・教職員数について

<県の考え方>

生徒数の減少により統廃合するのではなく少人数教育を導入すべきなど、少人数教育や教職員の増員についての御意見がありました。

公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律で、1学級の生徒数は40人を標準としており、これに基づき、地方交付税が措置される仕組みとなっています。そのため、一律に少人数学級編制を行うことは、財政的に困難な状況にあります。

そうしたことから、まずは、新たなタイプの学校づくりを目指す学校として、犬山南高校と御津高校において、少人数教育を導入する予定であります。また、少人数教育の導入のさらなる展開については、今後も引き続き、国の動向に注視しながら、検討をしていきたいと考えております。

なお、35人学級など少人数による学級編制にするとしても、今後の中学校卒業生数の減少により、学校規模自体は小規模化していくこととなります。そのため、統合等再編については、各校の状況に応じて検討する必要があると考えています。

※統廃合と少人数教育を合わせて記述した内容が多くありますが、この欄で整理をしてあります。

<御意見の概要>

(少人数教育の導入について) 31人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|-----|-------|--|
| 137 | 8 | 学校の統廃合において、クラスが減った時に教員の定数を減らさないこと。少子化というのは見えているが、見方を変えればチャンスになる。教員の数を変えなければ自然と少人数教育が実現される。 |
| 138 | 21 | 教員数の減少は、少人数教育を推進し、小学2年から始まっている35人学級を推進すれば、教員数の一定の維持は可能である。少子化に伴い、教育予算を削減せず、好機ととらえ少人数教育の実現に向かう必要がある。 |
| 139 | 23 | まずは、子どもたちが「来たい・学びたい」と思うような学校とするために、教職員定数の改善、少人数学級の早期実現など教育予算を大幅に増やすべき。 |
| 140 | 25 | 質の高い教育を受けるという意味では、中学校でも高校でも、少人数単位の学習集団の方が効果的。学校の数を現在数のまま残して、学級数も今の状態を維持して、クラス定員を減らすことを探ることが、国際比較しても、日本に求められる環境づくりだと思う。 |
| 141 | 26 | 教員のみならず、国民の多くが、少人数学級の実現を求めている。高校を統廃合するのではなく、少人数学級に向けて努力すべきではないか。教員の仕事量は年々増加している。生徒数が今後、減少を続けていく今こそ、少人数学級を実現するチャンスである。質の高い授業やより行き届いた指導、教員の長時間過密労働解消のためには、少人数学級の実現が喫緊である。そこで、教育委員会から国に対して学級編制の改訂を強く働きかけてほしい。 |
| 142 | 29 | コロナによる休校、分散登校を経た今、少人数学級の効用について再認識できたと思う。小中学校での35人学級が進められている今、高校学校においても少人数学級にすべきだと思う。一人ひとりにきめ細かい教育を施すことができれば、その一人ひとりが社会で活躍し、明るい未来が開ける。少子化が進む今、統廃合するのではなく、それぞれの学校の持ち味を少人数教育でより効果的に発揮してもらいたい。それぞれの学校の伝統もある。簡単になくすべきではない。しっかりお金を教育にかけてほしい。 |
| 143 | 30 | 何よりも必要なのは少人数学級を推進し、生徒の学習環境を向上させることを全県で進めれば、統廃合は必要なくなるのではないか。安易に学校数を減らすべきではない。 |

| | | |
|-----|----|---|
| 144 | 32 | 少子化を強調しているが、少人数学級の展望について具体的に触れられていない。40人学級のままで再編を考えるから統廃合をしなくてはならなくなる。少人数学級を実現してこそ、現場の教員の負担感も減り、中学生が学びたいと思える学級にすべく、きめ細やかな指導を始められるのではないかと。偏差値偏重の考えで弱者を切り捨てるのではなく真の教育の意義についてもう一度考えてほしい。 |
| 145 | 33 | 13,000人減少を強調しているが、第二次急減期には30,000人減少した。その時に公立も私立も40人学級が実現した。今回の再編計画も、高校の統廃合を前提で考えるのではなく、教育条件の向上のために35人学級の実現を目指すべきではないか。 |
| 146 | 39 | 学校を減らすことは生徒の選択肢が減ることになり、一層の魅力化・特色化を行っても地元の生徒の進学ニーズやその地域における役割に応えることが難しくなる。他国と比較して、学級規模が比較的日本は大きいと言われており、教師1人で150人担任が当たり前のような学校もある広域通信制に対する特色化を明確にするためにも、これを少なくしよりきめ細やかな対応が生徒にできるようになることが生徒にとっても地域にとっても、より魅力的な学校になる。 |
| 147 | 41 | 生徒の学力評価を、観点別に細かく評価をすることが求められるようになってきている。子どもの数の減少に見合った対応として、まずは少人数学級の実現を最優先に考えて欲しい。統廃合を喜ぶ子どもや県民はいないのではないかと。 |
| 148 | 42 | 統廃合ではなく、少人数学級の実現により教育環境の改善を図るべきである。生徒の学習権や通学を保障するため学校数を減らすべきではない。そのための教育予算の増額が必要である。 |
| 149 | 43 | 学科改編よりも、原点に戻り、基礎・基本が学べる中学生にとって魅力的に思える学校づくりを目指すべきである。少人数学級の実現こそ今一番求められている。高校は20人学級が望ましい。そのために教職員定数を改善し、真に生徒たちと教員が共に学べる環境を実現して欲しい。 |
| 150 | 44 | 学級定員を減らして少人数の手厚い教育を実現していくべきである。 |
| 151 | 45 | 少子化をのりきるには公私両輪体制で少人数クラスをめざしていく必要がある。 |
| 152 | 48 | 少人数学級の実現により教育環境の改善を図ることが、魅力ある学校づくりにつながると考える。愛知県の教育予算増を期待する。 |
| 153 | 56 | 統廃合ではなく、少人数学級の実現により定員割れや生徒数減少に対応するべきである。そのためには教育予算を増やすとともに、教職員定数を改善することが必要である。少人数教育は、困っている生徒などの早期発見にもつながり、教員の長時間勤務の改善、働き方改革にもつながる。県立高校は、広く県民のニーズに応えることが必要であるが、統廃合で行ける学校がなくなり私立にやむなく3年間通い続ける子供やその家族の思いを汲んで欲しい。愛知県の高校教育がよりよくなるように、統廃合の前に少人数教育に取り組んで欲しい。 |
| 154 | 59 | 適正規模を無効にして、都市圏では、交通至便地で大規模化する再編には反対である。結局、小規模校を次々と統廃合する案となっており、高校をさらに序列化する。学力レベルに偏って学校選択がされる傾向にあると指摘している点と矛盾している。まず少人数学級を実現すべきである。 |
| 155 | 64 | 海外の学校を見習うべき。高校の1クラス40名の生徒数は多すぎる。少人数学級の実現により定員割れや生徒数減少に対応すること。 |
| 156 | 66 | 35人学級、教員増は不可欠である。この視点も策定してほしい。 |
| 157 | 70 | 各地域での通学と学ぶ権利を保障するため、統廃合をすすめるべきではない。少人数学級の実現により定員割れや生徒数減少に対応するべき。また、教職員を増やして少人数学級を実現すれば、様々な困難を抱える生徒への素早く手厚い対応が可能となり、生徒にとっても保護者にとっても魅力化につながると考える。 |
| 158 | 77 | 生徒の学習権や通学の保障として公立高校の役割を果たすため、学校数を減らすべきではない。統廃合ではなく、少人数学級の実現により、定員割れや生徒数減少に対応するべき。また、少人数学級の実現により教育環境の改善を図ることで魅力化を進めるべき。 |
| 159 | 89 | もっと一人ひとりを大切に、一人ひとりにそれぞれの個性や力があることに、自信、信頼をもてる教育が必要ではないかと思っているが、基本的考え方で |

| | | |
|-----|-----|---|
| | | はそうっていないし、少ない高校にして序列化することは、中学生にも悪影響を及ぼすと考える。今こそ少人数学級を実現し、豊かな教育を実現できるようにして欲しい。 |
| 160 | 90 | 地域で通える学校が明らかに減ってしまうことは、大変遺憾である。教員の多忙化の解消や、1人ひとりに行き届いた教育をするために、統廃合でなく、1クラスあたりの人数を減らすことが大切ではないか。その学校だから通えている人もいたと思う。教育を受ける権利を奪わないでほしい。 |
| 161 | 91 | 生徒の学習権や通学の保証として、公立高校の役割を果たすために、統廃合には反対である。少人数学級実現により、定員割れや生徒数減少に対応して欲しい。 |
| 162 | 93 | 高校は、専門学校や職業訓練校ではなく、人間としての基礎学力をつける大切な時間を過ごす場所だと考える。安易に効率化をいうのではなく、校舎の建て替えや施設や設備の整備をして教える環境の改善を進めて、少人数学級をするべき。そのためには、教育予算を増やし、教職員定数を改善することが必要であり、未来を背負う子どもにお金をかけてほしい。 |
| 163 | 105 | 生徒数の減少を理由に統合するのは反対である。教員の数を減らさず、少人数にして、より丁寧な指導、教育が出来れば、それがその学校の魅力にもなるので、教員の数を減らさないように、学校の数を減らさないようにしてほしい。 |
| 164 | 107 | 学校の統廃合ではなく、少人数学級の実現により定員割れや生徒数減少に対応するべき。そのためには教育予算を増やすとともに、教職員定数を改善することが必要である。 |
| 165 | 109 | 学校を統合していくのではなく、全ての学校に均等に配分されるような定員にして、全ての地域、全ての学力層の中学生が、自分にあった高校を選択できるようにしてほしい。少子化対策は、40人学級を35人学級にすることで解決すると思う。余分な改革をやるのではなく、そこをしっかりとやってもらいたい。 |
| 166 | 112 | 統廃合には反対する。今、教育には少人数学級が求められており、少子化は好機と考え、教育の本質を実行すべきではないか。企業活動に奉仕する人材づくりが透けて見える行政の姿勢は改めるべき。 |
| 167 | 115 | コロナで分散登校が実施された時期があったが、不登校だった生徒が、人数が少ないからこそ学校に足を運ぶことができたという高校が何校もあった。統合すれば、学校に足を運ぶことができた不登校の子たちも、学校に通うことができなくなる可能性は十分考えられる。また、これからもコロナウイルス以外の感染症のため、分散登校や距離を取って授業をしなければいけない可能性が十分考えられる。人数が少なければ感染のリスクが抑えられる。 |

(教員数の増員について) 7人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|-----|-------|--|
| 168 | 7 | 23 ページ「総合学科の現状と課題」で、様々な教科・科目を開設できること目的を達成するために、人員を増やし教育内容を豊かにすることを提言するのではなく、運営体制の工夫が必要とし、現状の教員数で実施しようとするには無理がある。教員数を増員するべきである。 |
| 169 | 19 | きめ細かな指導を柱とした多種多様な学校が、各地域に存在するという県立高等学校の強み生かした、県立ならではの魅力を発信していく必要がある、としながら、統廃合を進めるのは矛盾している。きめ細かな指導を目指すならば、教員増こそが必要であるが、それについては触れられていない。 |
| 170 | 20 | 魅力化、きめ細かな指導とあるが、教員数の増加に触れられていない点に、現場感覚が不足していると感じられる。教員の負担を減らし、少子化の今こそ、少人数学級を実現するという再編をすべきだが、そのことについて具体的に書かれていない。 |
| 171 | 31 | 魅力化、手厚い指導とあるが、教員増には触れていない。 |
| 172 | 34 | 教育予算と教職員の手厚い配置をしてほしい。 |
| 173 | 47 | ICT 教育・オンライン授業を進めるのは素晴らしいが、仕事も多岐にわたっており、今までと同じ人数では対応できない。社内SE 的な人を増やすか、教員自体を増やすなど、対応をしないといけないと考える。また、教員は、かなりの割合 |

| | | |
|-----|----|---|
| | | で初任校が家からとても遠い学校に配属されることが多い。遠くに配属された場合は、早めに地元に戻れるようにしてほしい。学生から愛知の教員採用試験を避けられる結果につながるのではないか。 |
| 174 | 91 | 学校予算を増やし、教員数を増やし、生徒の様々な希望をかなえ、どこの学校でも同じ教育を受けられるようにすることが公立高校の役割だと思う。生徒が楽しく学生生活ができる学校であって欲しい。 |

9 施設整備について

<県の考え方>

施設の老朽化など、施設整備について、御意見がありました。

本県の県立学校施設は、昭和40年代から昭和50年代の生徒急増期に建設された建物の割合が高くなっています。また、本県では、平成15年度以降、校舎等の建物の耐震対策を最優先としてきたことで、これまで築30年を目途に実施してきた老朽化対策が実施されていない建物も多くありました。

しかし、生徒急増期に建設された建物が一斉に建替え（改築）の時期を迎えるとともに、老朽化対策を進める必要があることから、2019年度に「県立学校施設長寿命化計画」を策定しました。

この計画では、建物の目標使用年数を設定しておりますが、学校建物の物理的寿命を示すものではなく、適切な維持管理がなされ強度も確保されれば、技術的には、100年以上使用し続けるような長寿命化も可能であるとされております。

そのため、従来の使用年数の目安であった60年に、構造体への大きな影響を防ぐために必要な屋上防水や外壁改修の計画更新年数20年程度を加え、目標年数を80年としました。

長寿命化計画による長寿命化改修等では、改修の具体的な内容を、個々の建物の老朽化の状況や使用状況を把握したうえで決定していきませんが、先ほどの屋上防水や外壁改修だけでなく、床の張替えや劣化部補修など、建物の状況に応じて内装工事なども行うことで、外観・内観ともにリフレッシュされたものとなっております。

2019年度から2029年度までの11年間で739棟の校舎等を改修していく必要がありますので、全体で1千億円を超える事業費を各年度に平準化するとともに、一方でスピード感を持って、教育環境の維持・向上を図っていきます。

また、トイレの環境改善ですが、2019年度から2023年度までの5年間で短期集中的に、普通教室棟、管理棟及び一部の特別教室棟にあるトイレの床の乾式化や洋式化に取り組んでいるところであります。

県立学校のバリアフリー化については、取り組むべき重要な課題であると認識しております。現在、長寿命化改修等を進めておりますので、それに併せて「人にやさしい街づくりの推進に関する条例」に基づくバリアフリー化を推進してまいります。エレベーターについては、強度不足や再編構想に伴う校舎の建て替えの際に、設置を進めてまいります。

なお、いただいた御意見は、今後の施策の参考にさせていただきます。

<御意見の概要>

(校舎整備について) 10人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|-----|-------|--|
| 175 | 23 | 県立高校の魅力化のためには、老朽化した校舎の建て替えや、施設・設備の整備などを優先して行うべき。 |
| 176 | 30 | 老朽化した校舎の建て替えや施設・設備の整備を行い、中学生が学びたいと思う学校づくりをするべきです。そのためには、教育予算の大幅な増額が必要です。 |
| 177 | 43 | 統廃合ではなく、全国的にも低い愛知県の教育予算を大幅に増額して欲しい。そして、校舎の建替えや施設・設備の整備を行い、教育環境の改善を進め、中学生が学びたいと思う学校づくりをするべきである。 |
| 178 | 47 | 私立は、建物がきれいで、教室なども清潔感があり、全教室にプロジェクターが完備されていたりする。公立高校の教員は、一生懸命頑張っているが、努力では |

| | | |
|-----|-----|---|
| | | どうにもならない所で勝負が決まっている。県立高校では長寿命化の工事が行われており、校舎を80年使うことになる。校舎の建て直しをしないと公立高校の低迷は続くのではと思われる。 |
| 179 | 70 | 校舎の建て替えや施設・設備の整備を行い、教育環境の改善を進め、中学生が学びたいと思う学校づくりをするべき。そのために、全国的にも低い愛知県の教育予算を大幅に増額してほしい。 |
| 180 | 77 | 校舎の建て替えや施設・設備の整備を行い、教育環境の改善を進め、中学生が学びたいと思う学校づくりをするべき。 |
| 181 | 82 | 校舎の建て替えや施設・設備の整備を行い、教育環境の改善を進めるべき。 |
| 182 | 92 | 校舎の建て替えや施設・設備の整備を行い、教育環境の改善を進め、中学生が学びたいと思う学校づくりをするべき。 |
| 183 | 107 | 校舎の建て替えや施設・設備の整備を行い、教育環境の改善を進め、中学生が学びたいと思う学校づくりをするべき。 |
| 184 | 115 | 公立の高校に入学希望する生徒が減ったのは学校のトイレが汚いからという理由が大きいと思う。統廃合をする前に、公立の学校のトイレを改修してほしい。トイレを改修すれば、公立の高校を希望する子どもたちはウンと増えます。安心安全に子供たちが通うことができるという点から統廃合はやめてください。 |

(エレベーター等設置について) 7人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|-----|-------|--|
| 185 | 55 | 障害のある生徒が生活し学べるための施設環境整備、特にエレベーター設置をすべき。 |
| 186 | 71 | エレベーターや多目的トイレなどがなく、高校がバリアフリーでないことで仕方なく通信制高校を選ぶしかない場合もあるため、学校をバリアフリーにすることを必須にしてほしい。車いすユーザーの子どもにとってだけでなく、働く側にとっても、地域の方にとっても利用しやすく、魅力ある学校となる。 |
| 187 | 96 | 現在小中学校では、エレベーター設置はずいぶん進み、移動にエレベーターを必要とする生徒も地域の学校で当たり前で学校生活を送っているが、公立高校には一部しか設置がなく、通える範囲や学びたい学科ではない場合に、公立高校への受験を諦めざるを得ない生徒がいる。中学生に県立高等学校を選んでもらえない深刻な状況の中学生には、点数が取り辛い障害やエレベーターを必要とする障害のある生徒が含まれていないと感じる。全ての高校にエレベーター設置されることが望ましいが、県内の生徒がそれぞれ通える範囲の拠点校を決め整備していくことは、最低限必要だと思う。 |
| 188 | 129 | 今年、全日制で多くの欠員があり過去最大だったと思うが、それでも障害の重い生徒にとっての壁は厚いと思う。物理的問題として、車椅子を必要とする生徒にはエレベーターが必須だからである。インクルーシブ教育を推進する中で、このような物理的問題で高校を諦めざるを得ない生徒がいる現状を再編していかなければ、何の解決にもならない。バリアフリー法で全ての高校に、エレベーターを順番に設置していくようお願いする。 |
| 189 | 130 | 障害のある生徒にとって、受験はとても大切だと思う。車椅子を使って生活しているが、高校を考えた時、行きたい学校にエレベーターがないと、友達が言っていた。再編を考えたなら、まず希望した高校にエレベーター設置してくれるようにしてほしい。 |
| 190 | 131 | 再編成以前に、愛知県教育委員会は、様々な生徒が高校で学べるよう、インクルーシブな高校を基本とした再編を行うべきと思う。それには、第一に、エレベーターの設置は必須である。高校に行きたくてもエレベーターがないことだけで入試をあきらめる生徒もいる。 |
| 191 | 132 | 高校生になりたいと思っても、エレベーターがなければ車イス利用者にとって高校に受け入れてもらえない生徒が多い。再編を考えるなら、まずはエレベーター設置高校を増やす事を早急に行っていくのが必要である。 |

10 インクルーシブ教育・特別支援教育・多文化共生について

<県の考え方>

インクルーシブ教育、特別支援教育、多文化共生について、御意見がありましたので、今後の施策の参考とさせていただきます。なお、夜間中学については、愛知県教育会館に、中学夜間学級があり、様々な事情で中学校卒業できなかった方を対象に、中学校卒業程度の学力をつける機会を提供しております。特別支援学校においては、療育手帳や身体障害者手帳などの障害者手帳の有無によらず、学校教育法施行令22条の3に定められた程度の障害を有する子供を対象として、専門性を生かした教育を行っております。

<御意見の概要>

(インクルーシブ教育・特別支援教育について) 11人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|-----|-------|---|
| 192 | 13 | 定員割れ高校の統廃合を進める前に特別支援学校の分校・分教室の設置に関して計画に積極的に位置付けてほしい。今回が無理でも、4に「課題」として位置付けてほしい。また通級学級の設置を進めることに、空き教室を活用してほしい。 |
| 193 | 46 | 公立高校に通いたいけど通えない子どもの存在に目を向けてほしい。中学の時に、特別支援学級に在籍をしていても、療育手帳がないと、特別支援学校の高等部には入れないため、他の進学先を探さなければならない。通級を行っている高校はあるが、通級では、おぎなえない支援が必要な子がいる。そのような子の進学先が公立になく、統廃合するなら、空き教室を支援学級にするなど発達障害の子のための学校に変えることを希望する。公立に通わせられる所がないのが問題で、差別だと思う。 |
| 194 | 48 | 県内の特別支援学校の過大・過密問題もまだ解消まで至っていない。特別支援学校の課題解消も同時に考えてほしい。 |
| 195 | 55 | 全ての高校をインクルーシブ教育に変革すること。色々な特色を持つ高校を作ることには良いが、単なる特色づくりではなく共生社会の礎となる学校(小中学校も含む)は、全ての学校が障害のある生徒もない生徒も共に学ぶ学校であるべき。障害のある生徒が公立高校に通学するための支援制度を整備すべきである。障害者差別を行わないため、憲法・障害者権利条約・障害者基本法・障害者差別解消法・旧文部省発出通知・文科省発出通知・答申を遵守した構想とすること。 |
| 196 | 64 | 障害のある生徒にも対応すべきである。特別支援学校には、知的障害のある生徒のみが入学できるが、情緒障害のある生徒にも、もっと門戸を開くべき。各高等学校に必ず1クラス設置する必要がある。中学校で情緒障害のある生徒が年ごとに増えており、それらの生徒たちは専修学校や専門学校に行くしかない。 |
| 197 | 72 | 県教育委員会の方針や、県立高等学校のあり方について、全体を通してインクルーシブ教育を実現するための方向性に切り替えてほしい。インクルーシブ教育は、障害のある生徒だけではなく、すべての児童生徒を対象としているが、障害のある生徒、貧困家庭で育った生徒、ひとり親家庭で育った生徒、外国籍の生徒、LGBTQ当事者など、様々な背景を持つ児童生徒が現実にいることを認識し、すべての子どもが取り残されることなく、社会の一員として地域の学校でともに学べる環境をつくってほしい。また、学校で働く教職員も多様であるべきで、障害のある人や、外国籍、LGBTQ当事者等を積極的に教職員として雇用していく姿勢を見せてほしい。 |
| 198 | 94 | 一部の高校の統合ではあるが、全体的に生徒が周辺の高校へと分散していくと、今まで定員割れで入学ができていた高校でも、今後は入学できなくなることが予想される。特に障害の重い生徒や、知的障害のある生徒については、定員が割れていたとしても入れるか入れないかの状態である。定員が大幅に割れるから再編するのではなく、まず、希望する生徒が身近な高校に入ることができるようにす |

| | | |
|-----|-----|---|
| | | るのが大切なのではないかと考える。全日制高校に障害があってもなくても、誰もが学べる環境整備（例えば、エレベーターの設置など）や、進路指導で障害などを理由に受検をあきらめさせられてしまうような状況を改善していくことも必要であると思う。 |
| 199 | 99 | 愛知では、次々に特別支援学校が作られ、重い障害のある生徒は、障害に応じて細かく振り分けられる施策が続いているが、障害者権利条約等が真に目指すインクルーシブ教育は、そういうものではない。小さな頃から障害の程度に応じて学ぶ場、生活する場を分けることが当たり前だと刷り込まれ、選ばされているだけで、本当は、みんなと一緒に学びたい、みんなと一緒に学校生活を送り、成長したいと願っている当事者や保護者はたくさんいる。高校再編により、高校の数が大きく減らされ、定員割れする高校が無くなった場合、どんなに頑張っても点の取れない生徒が、高校生になることが不可能になってしまう。障害のある子も希望する生き方が実現できる社会であってほしいと願う。 |
| 200 | 104 | 板書が難しい生徒達のために黒板を写真で撮るなどタブレットの活用を検討してもらいたい。書くことが難しい生徒達のために、レポートのパソコン利用を認めてもらいたい。心理士の定期的な巡回があっても良いのではないかな。 |
| 201 | 119 | 障害のある子どものことも念頭に置いた将来構想になっていない。定員割れ対策としての再編構想であるならば、過去に、定員内で受検した障害のある子どもが、定員内で拒否をされている場合があり、このことをまず検討すべきである。高校にエレベーターが設置されていないため、そもそも入試を諦めさせられた生徒がいる。2030年までにインクルーシブ教育の実現を国是としている現在、校舎の建て替えや施設・設備の整備をおこない、みんなが学べる学校づくりをするべきあり、そのためには、教育予算の大幅な増額が必要で、安易に学校数を減らすべきではない。 |
| 202 | 121 | 公立は、発達障害のある生徒に対しての配慮がないところが多く、中学の勉強もままならないと、高校に進学しても単位がとれずに、結局ついていけずに終わってしまう事が懸念される。私立も、専修学校も、発達障害のある生徒や、手帳を持っていても受け入れてくれる学校は、本当に限られ、狭き門であり、軽度知的のための特別支援学校も、人数に限られ、倍率が高いのが現状である。インクルーシブ教育の環境を整えてほしい。誰もが、教育を受けられる権利を、広い幅で与えてほしい。少数者の意見ではあるが、公立でも障害のある生徒を受け入れてほしい。 |

(多文化共生について) 5人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|-----|-------|---|
| 203 | 13 | 愛知県には夜間中学がない。外国人の多い愛知県。交通の便の良い「定員割れ高校」の校舎を活用し「県立夜間中学」を設置する計画を立ててほしい。今回が無理でも、4に「課題」として位置づけてほしい。 |
| 204 | 24 | 日本語のコミュニケーションが難しい生徒は、入学してから学習についていけず、学校が続けられないというケースがある。日本語が苦手な生徒専門の学校なり、地区の拠点校にそのような学級を作って手厚く支援して、日本社会の適応と学習の成果を確保する仕組みを構築するべきではないか。現状は通常の指導が難しめの学校に外国人選抜があり、より教員の負担を高めている。 |
| 205 | 87 | 多文化共生を視野に入れた計画にして頂きたい。愛知県には外国に繋がる子ども、日本語教育が必要な子どもが多い。10年前と比べ彼らの高校進学率は格段に上がったが、次の課題として、義務教育を終えて高校に進学してからのサポート体制が必要だと感じている。勉強に追いつけなければ留年や退学となる制度は仕方ないとしても、学校は、そのような子をサポートして卒業に導く責任があると思う。 |
| 206 | 104 | 教科書をそのまま話すのではなく、分かりやすい授業ができる体制作りをしてほしい。二字熟語と普段話で使う言葉が一致するよう説明できるよう研修等してほしい。やさしい日本語を使った授業をする高校として魅力として発信するのはどうか。外国にルーツを持つ子ども達と話すのに慣れている人がサポーターとして |

| | | |
|-----|-----|--|
| | | 授業に入り込むのはどうか。外部人材を活用して、放課後に教室で日本語のサポートを受けられるようにするのはどうか。オンラインでサポートも可能だと思う。高校の説明パンフを多言語化してほしい。親が納得しない高校には子どもは行けないし、受験のために勉強しなければいけない子ども達の時間を親への説明に割かずに済むようにしてもらいたい。 |
| 207 | 124 | 夜間定時制に限らず、外国人生徒への支援強化について、特に早急に取り組んでほしい。海外にルーツを持つ外国人生徒は、愛知県の将来にとって貴重な県民であり、グローバルな競争社会では、多様な人々が暮らす、人種のるつぼと言われるようなエリアこそが強みになる。そのため、この分野に予算を割いて、対応できる人材を増やす事が、愛知県の命題だと思う。愛知県立国際高等学校というのが将来的に構想されると良いと思う。(名古屋都心に、外国にルーツを持つ生徒など、高校内がミニグローバルで日本人生徒にとっても、国際感覚を養える高校。英語の授業だけではなく、英語で日常的に授業をし、ポルトガル語の授業など、独自のプログラムがある高校。英語がネイティブな帰国子女を受け入れられるような環境のある高校。) |

11 入試制度について

<県の考え方>

入試制度について御意見がありましたので、今後の施策の参考とさせていただきます。

<御意見の概要>

(入試制度について) 8人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|-----|-------|---|
| 208 | 21 | 学校の「特色化」を進めるのであれば、複合選抜制度を見直す必要がある。この制度は、現在、成績による序列化をつくりだす制度になっており、そこに学校が特色のあるものになれば、どういう視点で学校選びをするのか、さらに複雑な制度になると思う。特色ある学校づくりを進め、その学校に入りたいという中学生の希望に応えるのならば、2校を選ぶ制度の見直しを図る必要がある。 |
| 209 | 55 | 文科省の通知で「いわゆる適格者主義について」に記載されているように「適格者主義」は撤廃されていることを基本とすること。また、住んでいる地域で合否が異なることは不合理であるため、定員内不合格を出さないこと。 |
| 210 | 58 | 複合選抜制度導入時の合意事項である推薦枠普通科10%以内を厳守すべきであり、特色選抜による推薦枠の拡大には反対である。 |
| 211 | 61 | 学区制の撤廃と、入試における内申点(調査書点)の比重の高さを低くし、試験の点数の比重を割合として高めてもらいたい。 ・教育カリキュラムの質の高さ、特色ある学びの選択 ・国公立を中心とした大学進学率(2001 東京都立高校改革参考) ・授業料の安さ(補助金や奨学金などの選択肢の充実)等 |
| 212 | 65 | 公立高校入試の二次募集について、私立高校に合格していても二次募集へ応募可能にするなど、入試改革も必要。 |
| 213 | 100 | 短い検討期間であったにもかかわらず、基本方向と急ぐ課題の具現化についての確にまとめられた案だと思う。ただ、公立定員割れ対策が問題視されていたが、他にも追加検討いただきたい事項がある。 6. 入試を「選抜テスト」ではなくて、本来の「標準学力テスト」にもどす 多数校間の差異が少なければ、家庭と中学生本人の主体的選択の働く余地が増える。選抜機能重視の差の出る入試は、極力避けなければならないと思う。入試の差異性さえできれば「公立離れ・学校離れ」は減るだろう。 |
| 214 | 104 | 推薦枠を広げるか入試時期を早めれば、志望者や受検者が増えるのではないか。不登校生徒選抜の対象を既卒者にも広げてほしい。外国にルーツを持つ生徒達の枠や対象校を広げてほしい。小学校4年生以降の来日ではなく、申請制にしてはどうか。また、外国人生徒選抜について知らない中学校の先生も多いので、より多くの人にいろんな入試制度を知ってもらう必要があるのではないか。 |
| 215 | 113 | 欠員の急増などのため再編することだが、定員内不合格を出していることと矛盾している。再編の前に出来る事をすべきであり、欠員を理由にするのなら、高校進学希望者は全員入学させ、誰一人取り残さないことを保障してほしい。 |

12 構想策定の進め方について

<県の考え方>

県立高等学校再編将来構想（案）を策定する際の進め方について、御意見がありました。

今回、構想を策定するに当たり、各地区の県立高校と中学校の代表校長で構成される検討委員会を設置しました。さらに、検討委員会の委員を始め、各県立高校長、市町村・地域の関係者からも、数多くの意見や提案をいただきました。そして、これらの内容を、県立高等学校再編将来構想（案）として取りまとめ、今回、パブリック・コメントを実施しました。

なお、いただいた意見や提案は、すぐに実現可能なものから、今後の検討や研究が必要なもの、アイデアレベルのものまで、様々なものでありますので、来年度以降も継続的に、学校関係者を始め幅広く意見を聞きながら、県立高校の魅力化・特色化、再編に向けた具体的な取組を検討し、順次、公表していくことを考えております。

<御意見の概要>

（構想策定の進め方について） 12人

| 番号 | 応募者番号 | 御意見の概要 |
|-----|-------|--|
| 216 | 34 | 構想の話し合いには、子どもの教育権の主体である保護者の代表を含むなど、保護者や県民の意見が反映するようにしてほしい。統廃合や新学科設置などの際には、地域住民にも丁寧な説明を行い、納得を得てほしい。 |
| 217 | 39 | 名古屋市立や国立、私立高校も愛知県内には存在しているが、県立のみの分析になっており、十分な現状把握になっておらず、そこから導き出される課題が、意味がなくなっている。やはり、少子化が進むことや広域通信制への進学を希望する生徒が多くなっていることを考慮すると、県立、市立、国立、私立の関係者が集まる会議を設置し、将来構想を検討することが必要不可欠ではないか。 |
| 218 | 69 | 学科改編、工科高校の校名変更、マークシート入試など方針が定まっていないように感じる。現場の校長などの意見は聞いているかもしれないが、なぜ教員の意見は聞こうとしないのか。 |
| 219 | 71 | 少数者であるの子どもたち（障害のある方、LGBTQの方、外国籍の方、貧困世帯の方など）にとっても魅力ある学校にするため、その当事者や支援者の意見を聴取し、反映してほしい。 |
| 220 | 72 | 1ページの県立高等学校再編将来構想検討委員会は、県教育委員会の職員を構成員としているとのことだが、障害当事者や外国籍の方を支援している人、LGBTQ当事者等、いわゆるマイノリティの方たちの意見を取り入れられるような仕組みを作してほしい。4ページの外部の専門機関と連携した、持続可能な教育体制を構築する、の外部の専門機関に、障害当事者団体を含んでほしい。5ページの県と市町村による高等学校のあり方に関する協議に、県と地域の市町村等関係者で協議をする場を設ける、の中に、障害当事者団体を含んでほしい。 |
| 221 | 78 | P3 ポイント1では、中学生（保護者）はじめ、地元自治体、中学校のニーズを把握の上で、学校づくりの方針を決定することが大切である。魅力化・特色化、統合等再編の計画策定の前提として、「中学生（保護者）、中学校へのアンケート調査等の実施」をあらゆる策の一例として文言に加えるよう提案する。 |
| 222 | 81 | 高校改革室を中心に県立高等学校再編将来構想検討委員会を設置し策定したというが、有識者や保護者・教員から広く意見を聞き取ってはいない。「県立高等学校教育推進基本計画(高等学校将来ビジョン)」（15～24年度）の生徒減少地域での対応の具体化を図るもので、第二期実施計画を踏まえての具体的な取組だから、オーソドックスな検討組織は不必要ということにはならないと思う。推進基本計画の第二期実施計画は2020～24年度が対象であるのに、再編将来構想は22～35年度なのだから、全く別の計画である。県立高等学校再編将来構想具体化検討委 |

| | | |
|-----|-----|---|
| | | 員会で学校関係者を始め幅広く意見を聞きながら、魅力化・特色化、再編に向けた具体的な取組を検討し、順次、公表していくとしているが、このメンバーには有識者や保護者・教員を入れるべきだ。また、子どもの意見表明の場を設けようという気配が感じられない。本パブコメへの中学生等の参加は拒まれていないが、それ以上の手立てをとるべきである。地域の期待に応える学校づくりを掲げ、高校の存在は、持続可能な地域づくりとして重要な要となっているとのこれまででない観点を明記した点は評価できるが、幅広く意見を聞くことなく2地区での統廃合の第一次具体化案を打ち出している。 |
| 223 | 95 | 県立高等学校再編構想検討委員会の委員の多様性を保障すべき。多様な学生が学ぶ高校の構想を検討する委員会自体に多様性があることこそが重要である。多様な立場の人の意見を取り入れるようにすべきである。多様な立場の人の学びが苦しいのは、教育委員会の在り方自体に多様性が無く、学びの場の魅力が無いからである。教育委員会自体が、グローバル・ダイバシティー・インクルージョンを実践することが、グローバルな人を育てる教育となる。 |
| 224 | 97 | 愛知県の全日制高校への進学率は9割以下で、全国で最も低率。多様な学び方があるのではなく、全日制高校への入口が様々な条件で狭められている。中学教育、高校入試、高校の配置、家庭の事情への配慮、公私の関係など、見直すべき点は多々あるが、そのためには、教育行政だけでなく、当事者である子どもと保護者を含む県民の意見を反映する仕組みが必要になる。地域から高校がなくなることは、地域の将来に重大な影響を及ぼすことであるから、地域住民の声を聞き、幅広い人々の納得を得ることが求められる。行政は、県民の声を聞き、それを反映していくことが基本的な立場であるべき。 |
| 225 | 103 | 高校の再編・統廃合に際しては、地元自治体のみならず、地元住民、生徒、保護者に対しても、丁寧に説明して、その意見を取り入れるようにしてほしい。 |
| 226 | 118 | どうして、現場の意見を求めずに決めてから意見を聞くのだろうか。校長が現場の意見を集約できていると思っているのだろうか。現場の教員は、パブリック・コメントでしか意見が出せないのだろうか。愛知県は、今回のコロナの影響による1人1台パソコンの配備に大きく出遅れた。そのことだけを見ても、愛知県の公立高校に通わせたくないと考えている保護者の方がいる。決定の過程が見えない学校や教育委員会を信用して、子供を預けられると思うだろうか。 |
| 227 | 123 | 従来、高校再編については、専門家や当事者である保護者の代表を含む場で議論され、その過程が公表されてきたものと承知している。高校の配置については、教育委員会と学校関係者だけで、審議できることではない。新しい学校づくりは、学校現場、保護者、生徒、地域からの検証を経て進められていくべきものであり、制度や予算のこともきちんと見通しを持つ必要がある。言葉だけで新しい高校が作られるわけではなく、検証がなければ、問題を見逃すことになる。今後のあり方についての協議は、教育行政関係者の場ではなく、当事者である生徒・保護者および専門家を含むものでなければならない。 |